

荒川洪水氾濫時の人的被害想定結果(概要)

＜死者数・孤立者数＞

目 次

1.	検討ケース	P	2
2.	市区町村別死者数（ケース1 ②ー1 荒川左岸低地氾濫（中川・綾瀬川満杯）	P	3
3.	死者数の分布（ケース1 ②ー1 荒川左岸低地氾濫（中川・綾瀬川満杯）	P	4
4.	市区町村別死者数（ケース8 ②ー1 荒川左岸低地氾濫（中川・綾瀬川満杯）	P	5
5.	死者数の分布（ケース8 ②ー1 荒川左岸低地氾濫（中川・綾瀬川満杯）	P	6
6.	市区町村別死者数（ケース1 ④ー1 荒川右岸低地氾濫（隅田川・神田川・日本橋川満杯）	P	7
7.	死者数の分布（ケース1 ④ー1 荒川右岸低地氾濫（隅田川・神田川・日本橋川満杯）	P	8
8.	市区町村別死者数（ケース8 ④ー1 荒川右岸低地氾濫（隅田川・神田川・日本橋川満杯）	P	9
9.	死者数の分布（ケース8 ④ー1 荒川右岸低地氾濫（隅田川・神田川・日本橋川満杯）	P	10
10.	市区町村別死者数（ケース1 ⑤江東デルタ貯留型氾濫	P	11
11.	死者数の分布（ケース1 ⑤江東デルタ貯留型氾濫	P	12
12.	市区町村別死者数（ケース8 ⑤江東デルタ貯留型氾濫	P	13
13.	死者数の分布（ケース8 ⑤江東デルタ貯留型氾濫	P	14
14.	各類型区分別の死者数（ケース1）	P	15
15.	各類型区分別の死者数（ケース8）	P	16
16.	200年に1度の発生確率の洪水により堤防が決壊した場合の死者数と その洪水量の約3割増の洪水量（約1000年に1度の発生確率）により堤防が決壊した場合の死者数の比較	P	17
17.	孤立者数の分布	P	20
18.	救出活動後の孤立者数の推移	P	26
19.	各類型の死者数・孤立者数	P	29

1. 荒川排水計算の検討ケース

ケース	洪水の発生確率 ^{注5}	排水ポンプ場		水門等の操作 ^{注3}	排水ポンプ車の稼動 ^{注4}
		運転(浸水しない場合) ^{注1}	燃料補給 ^{注2}		
1	1/200年	できない	—	できない	できない
2	1/200年	できない	—	できる	できない
3	1/200年	できる	できない	できない	できない
4	1/200年	できる	できない	できる	できない
5	1/200年	できる	できない	できない	できる
6	1/200年	できる	できない	できる	できる
7	1/200年	できる	できる	できない	できる
8	1/200年	できる	できる	できる	できる
1'	1/1000年	できない	—	できない	できない
5'	1/1000年	できる	できない	できない	できる
8'	1/1000年	できる	できる	できる	できる

注1: 浸水位が運転可能な浸水深を上回った場合に運転停止する。ただし破堤開始～水位が破堤敷高を下回るまでは、破堤地点上流のポンプ場排水は停止する。

- ・国、都県管理の排水ポンプ場は、浸水深が各施設ごとの運転停止する水位に達した場合に運転停止
- ・市区町村管理の排水ポンプ場は、機能停止高が不明な施設については浸水深が50cmに達した場合に運転停止

注2: 燃料補給が「できない」場合には、備蓄の燃料が無くなれば運転停止する

- ・国管理の排水ポンプ場は、各施設ごとの燃料備蓄量に基づく運転継続可能時間を超えた場合に運転停止
- ・都県管理の排水ポンプ場は、連続運転時間が不明な施設は運転継続時間が1日を超えた場合に運転停止
- ・市区町村管理の排水ポンプ場は、連続運転時間が不明な施設は運転継続時間が2日を超えた場合に運転停止

注3: 水門等が操作「できない」場合には、水門が閉じたまま開扉できない設定。水門等が操作「できる」場合には、河川の水位が堤内側の水位を下回った瞬間に閉扉する理想的な操作を実施。

注4: 排水ポンプ車については、3日後から配置するものとし、関東地整内の全ポンプ車の排水能力に相当する16.83m³/sを全ての浸水メッシュに分配して排水することとした。

注5: 資料中、200年に1回の確率で発生する洪水流量は「1/200年」と記載し、1000年に1回の確率で発生する洪水流量は「1/1000年」と記載した。

ケース1

ポンプ運転 無 : 燃料補給 無 : 水門操作 無 : 排水ポンプ車 無 : 1/200年

想定堤防決壊箇所:川口市

避難率0%の場合

死者数:約1,800人

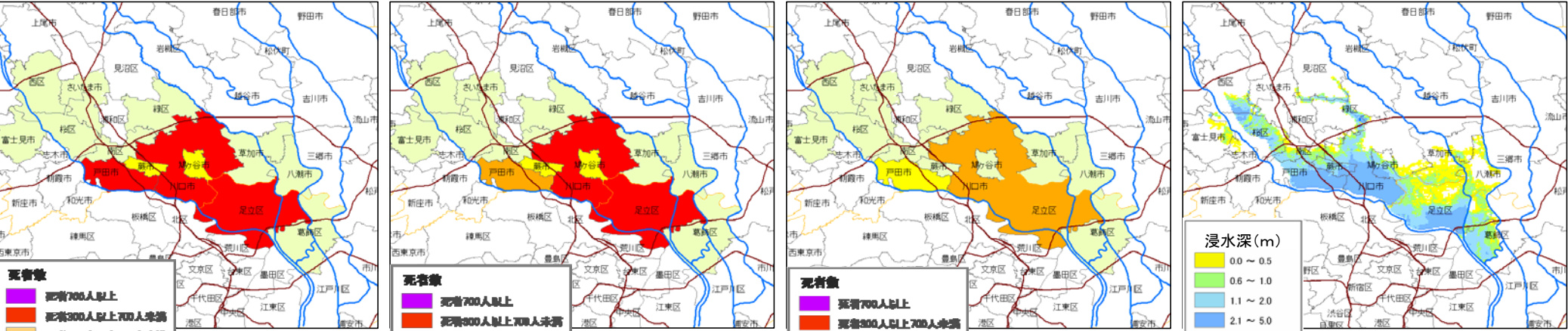
避難率40%の場合

死者数:約1,100人

避難率80%の場合

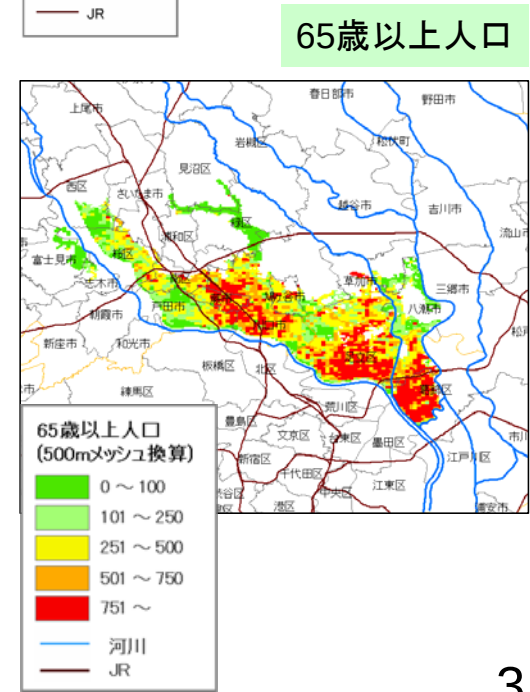
死者数:約400人

最大浸水深



死者数		死者数		死者数	
川口市	約700人	川口市	約400人	川口市	約100人
足立区	約500人	足立区	約300人	足立区	約100人
戸田市	約400人	戸田市	約300人	戸田市	約80人
鳩ヶ谷市	約100人	鳩ヶ谷市	約60人	鳩ヶ谷市	約20人
蕨市	約70人	蕨市	約40人	蕨市	約10人
葛飾区	約20人	葛飾区	約10人	葛飾区	—人
さいたま市桜区	約20人	さいたま市桜区	約10人	さいたま市桜区	—人

注) 避難率0%の場合の死者数が10人以上の市町村を掲載



3. 死者数の分布：②-1 荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯)

ケース1:ポンプ運転 無 :燃料補給 無 :水門操作 無 :排水ポンプ車 無 :1/200年

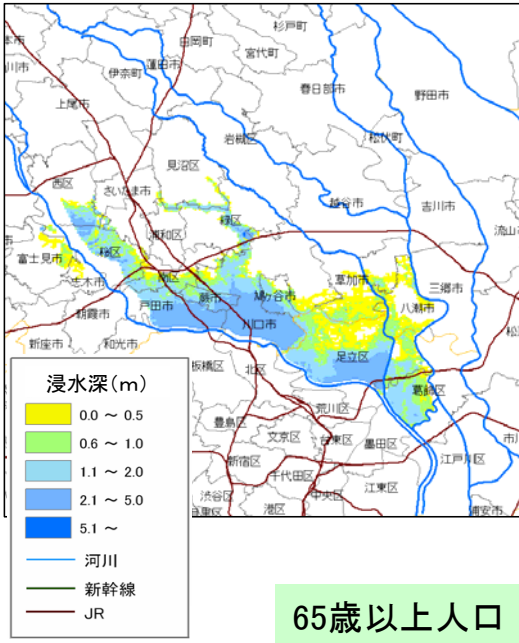
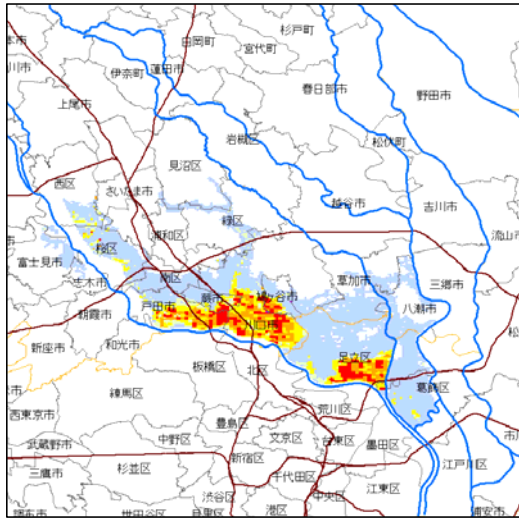
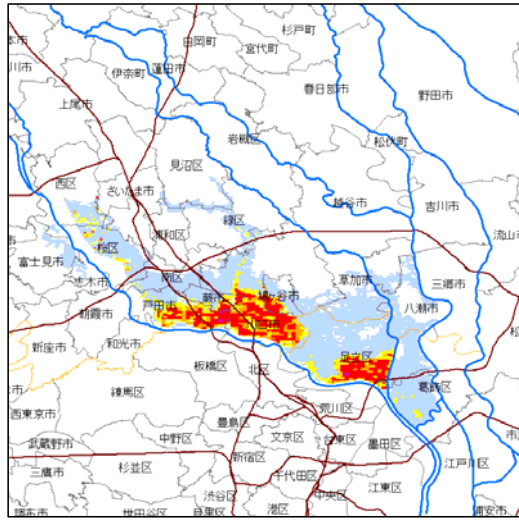
想定堤防決壊箇所:川口市

避難率0%の場合
死者:約1,800人

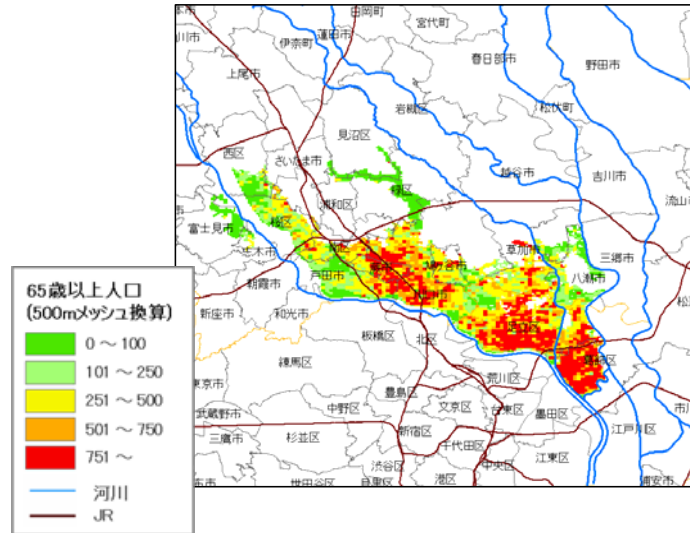
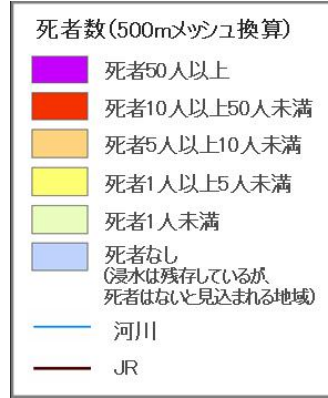
避難率40%の場合
死者:約1,100人

避難率80%の場合
死者:約400人

最大浸水深



65歳以上人口



注)元荒川広域氾濫、入間川合流点上流氾濫は250mメッシュ、荒川左岸低地氾濫、荒川右岸低地氾濫、江東デルタ貯留型氾濫は125mメッシュ(上流の一部区間は250mメッシュ)にて算出している。両者の整合を図るため、各メッシュ内の死者数(もしくは孤立者数)の密度を求め、利根川の算出に用いた500mメッシュに換算した上で、利根川と同様の閾値を用いた。

ケース8

ポンプ運転有 : 燃料補給有 : 水門操作有 : 排水ポンプ車有 : 1/200年

想定堤防決壊箇所:川口市

避難率0%の場合

死者数:約1,600人

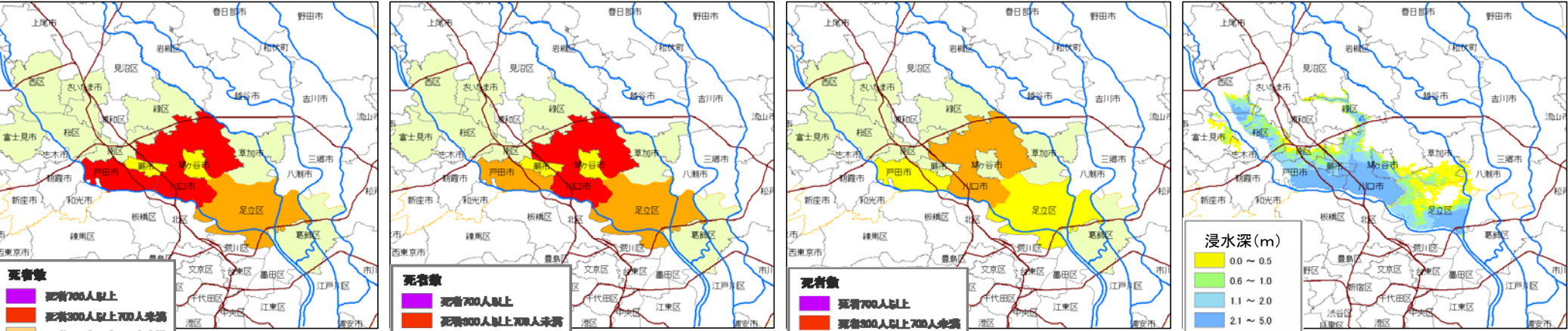
避難率40%の場合

死者数:約1,000人

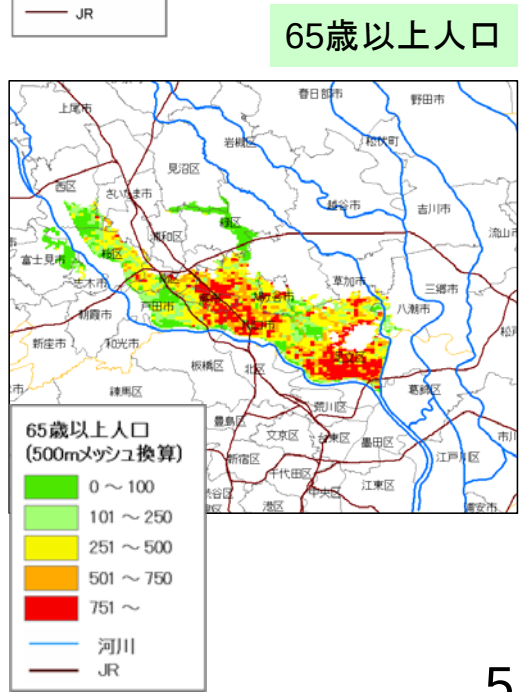
避難率80%の場合

死者数:約300人

最大浸水深



死者数		死者数		死者数	
川口市	約700人	川口市	約400人	川口市	約100人
戸田市	約400人	戸田市	約200人	戸田市	約80人
足立区	約300人	足立区	約200人	足立区	約60人
鳩ヶ谷市	約90人	鳩ヶ谷市	約60人	鳩ヶ谷市	約20人
蕨市	約70人	蕨市	約40人	蕨市	約10人
さいたま市桜区	約20人	さいたま市桜区	約10人	さいたま市桜区	—人
葛飾区	約10人	葛飾区	約10人	葛飾区	—人



注) 避難率0%の場合の死者数が10人以上の市町村を掲載

5. 死者数の分布：②-1 荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯)

ケース8:ポンプ運転 有 :燃料補給 有 :水門操作 有 :排水ポンプ車 有 :1/200年

想定堤防決壊箇所:川口市

避難率0%の場合

死者:約1,600人

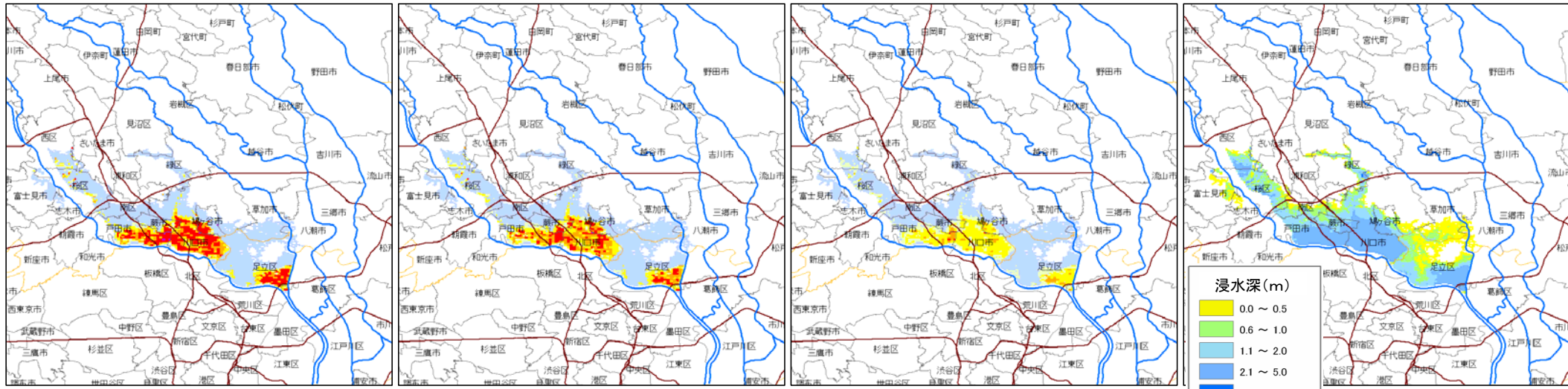
避難率40%の場合

死者:約1,000人

避難率80%の場合

死者:約300人

最大浸水深



65歳以上人口

死者数(500mメッシュ換算)

- 死者50人以上
 - 死者10人以上50人未満
 - 死者5人以上10人未満
 - 死者1人以上5人未満
 - 死者1人未満
 - 死者なし
(浸水は残存しているが
死者はないと見込まれる地域)
- 河川
JR

死者数(500mメッシュ換算)

- 死者50人以上
 - 死者10人以上50人未満
 - 死者5人以上10人未満
 - 死者1人以上5人未満
 - 死者1人未満
 - 死者なし
(浸水は残存しているが
死者はないと見込まれる地域)
- 河川
JR

死者数(500mメッシュ換算)

- 死者50人以上
 - 死者10人以上50人未満
 - 死者5人以上10人未満
 - 死者1人以上5人未満
 - 死者1人未満
 - 死者なし
(浸水は残存しているが
死者はないと見込まれる地域)
- 河川
JR

65歳以上人口
(500mメッシュ換算)

- 0 ~ 100
 - 101 ~ 250
 - 251 ~ 500
 - 501 ~ 750
 - 751 ~
- 河川
JR

注)元荒川広域氾濫、入間川合流点上流氾濫は250mメッシュ、荒川左岸低地氾濫、荒川右岸低地氾濫、江東デルタ貯留型氾濫は125mメッシュ(上流の一部区間は250mメッシュ)にて算出している。両者の整合を図るため、各メッシュ内の死者数(もしくは孤立者数)の密度を求め、利根川の算出に用いた500mメッシュに換算した上で、利根川と同様の閾値を用いた。

ケース1

ポンプ運転 無 : 燃料補給 無 : 水門操作 無 : 排水ポンプ車 無 : 1/200年

想定堤防決壊箇所: 北区

避難率0%の場合

死者数: 約2,000人

避難率40%の場合

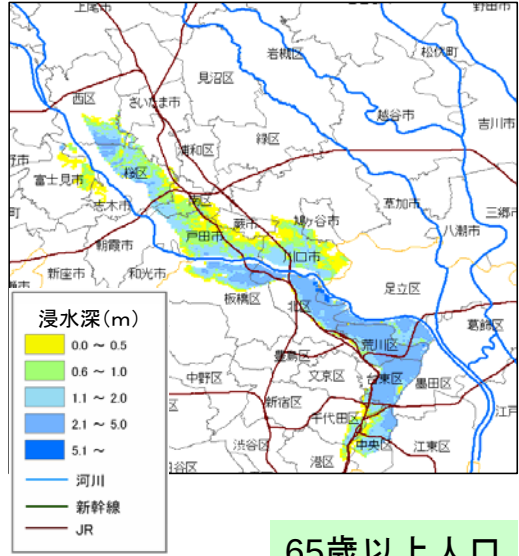
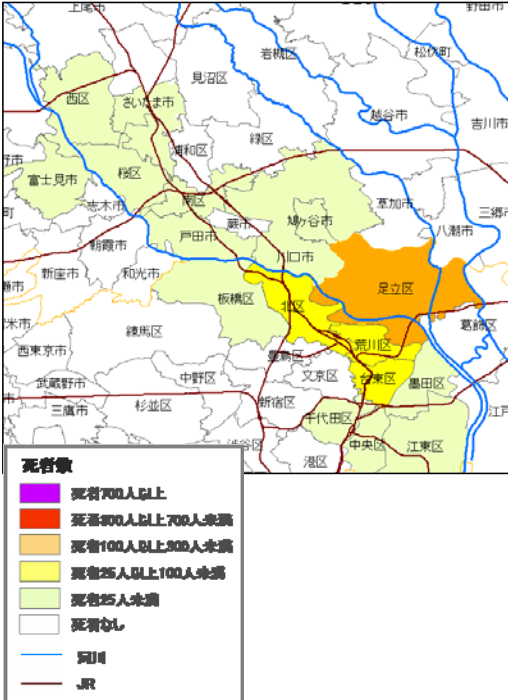
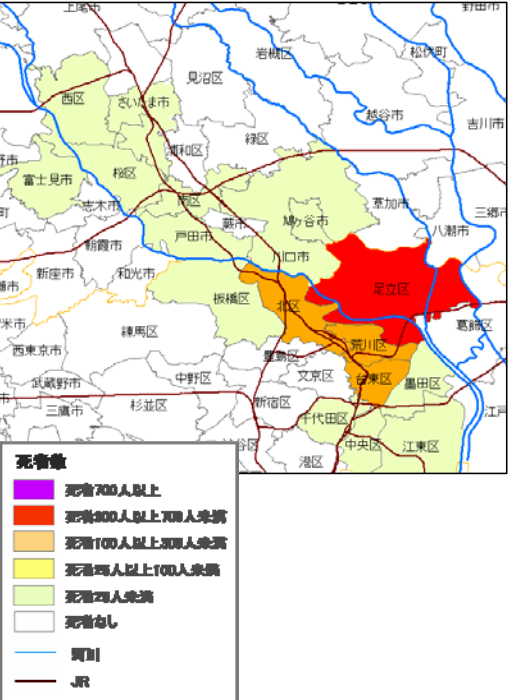
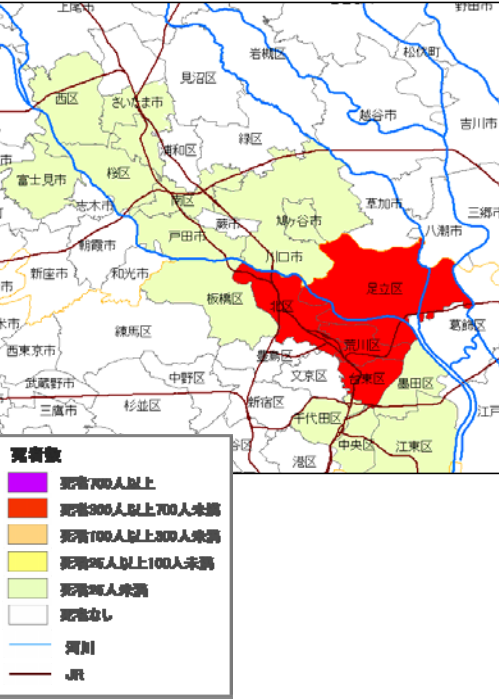
死者数: 約1,200人

避難率80%の場合

死者数: 約400人

最大浸水深

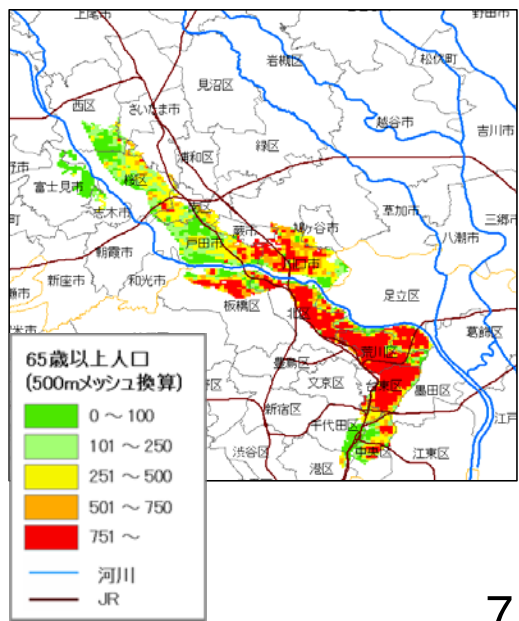
65歳以上人口



死者数	
足立区	約600人
荒川区	約500人
北区	約500人
台東区	約400人
板橋区	約20人人
さいたま市桜区	約20人

死者数	
足立区	約300人
荒川区	約300人
北区	約300人
台東区	約300人
板橋区	約10人
さいたま市桜区	約10人

死者数	
足立区	約100人
荒川区	約100人
北区	約100人
台東区	約90人
板橋区	— 人
さいたま市桜区	— 人



注) 避難率0%の場合の死者数が10人以上の市町村を掲載

7. 死者数の分布：④-1 荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯)

ケース1:ポンプ運転 無 :燃料補給 無 :水門操作 無 :排水ポンプ車 無 :1/200年

想定堤防決壊箇所:北区

避難率0%の場合

死者:約2,000人

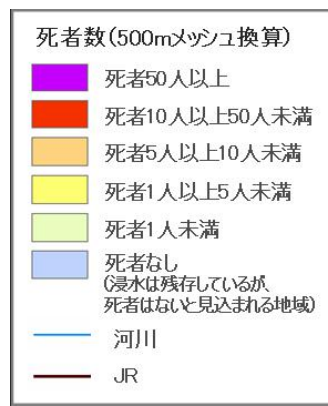
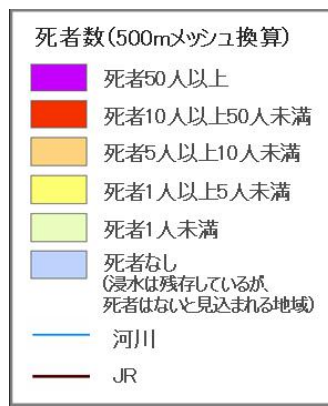
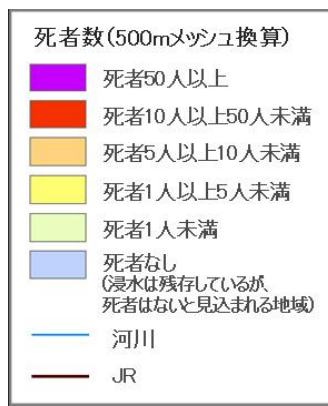
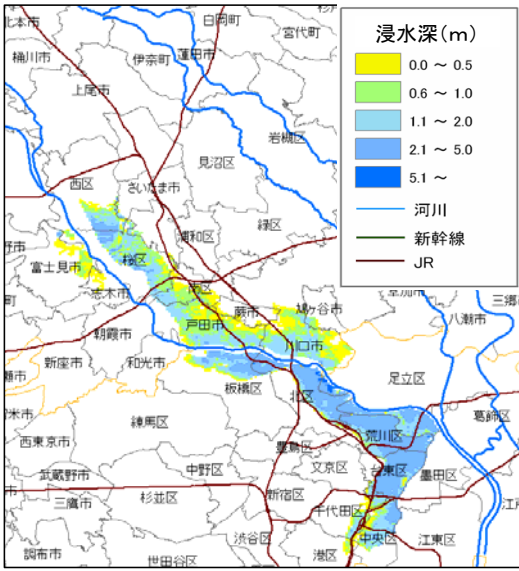
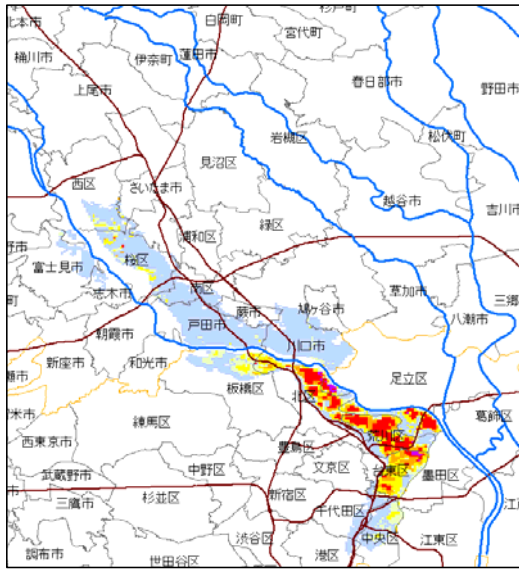
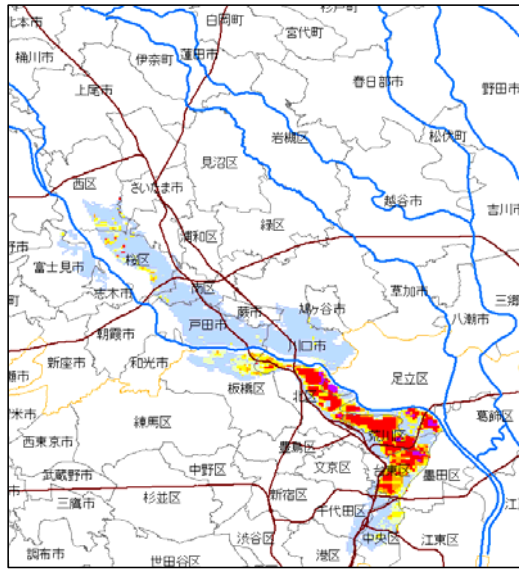
避難率40%の場合

死者:約1,200人

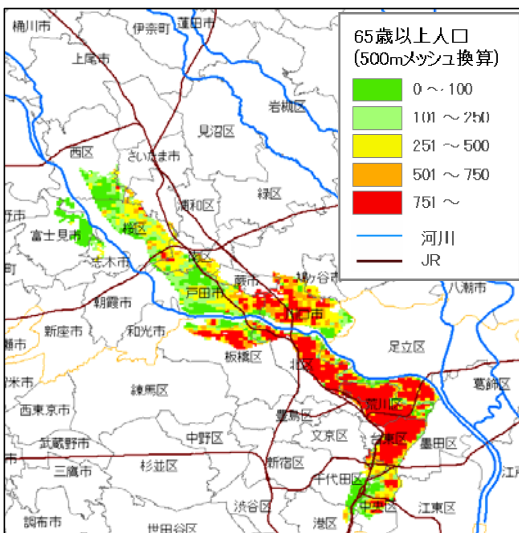
避難率80%の場合

死者:約400人

最大浸水深



65歳以上人口



注)元荒川広域氾濫、入間川合流点上流氾濫は250mメッシュ、荒川左岸低地氾濫、荒川右岸低地氾濫、江東デルタ貯留型氾濫は125mメッシュ(上流の一部区間は250mメッシュ)にて算出している。両者の整合を図るため、各メッシュ内の死者数(もしくは孤立者数)の密度を求め、利根川の算出に用いた500mメッシュに換算した上で、利根川と同様の閾値を用いた。

ケース8

ポンプ運転 有 : 燃料補給 有 : 水門操作 有 : 排水ポンプ車 有 : 1/200年

想定堤防決壊箇所: 北区

避難率0%の場合

死者数: 約1,900人

避難率40%の場合

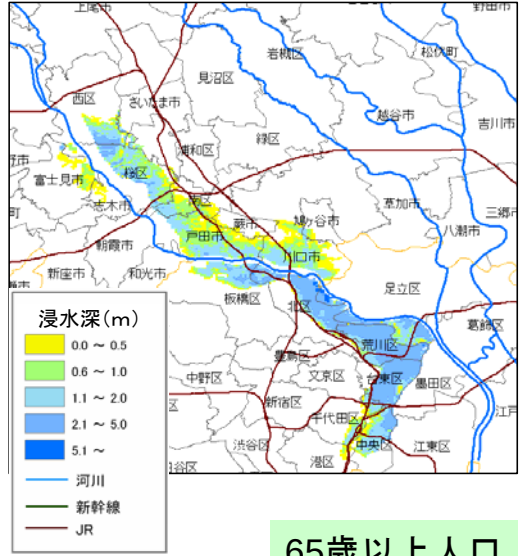
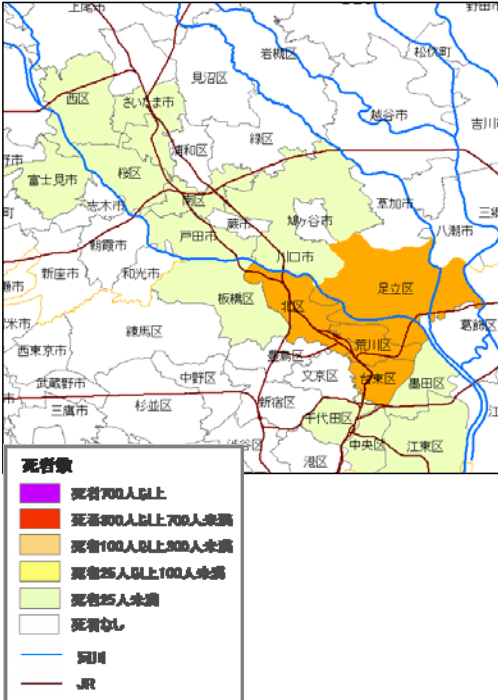
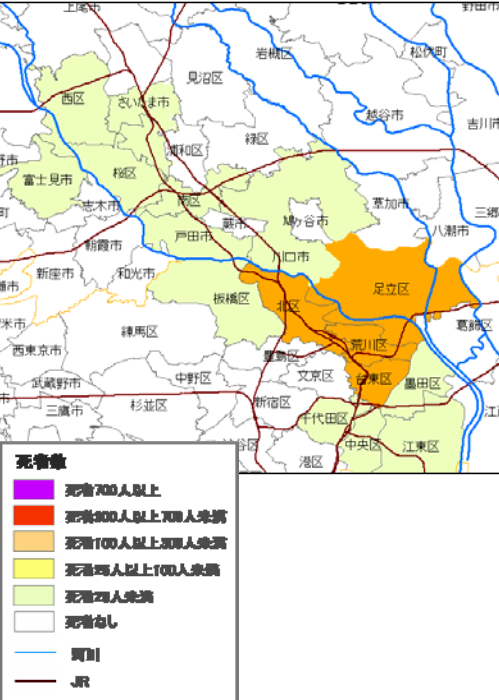
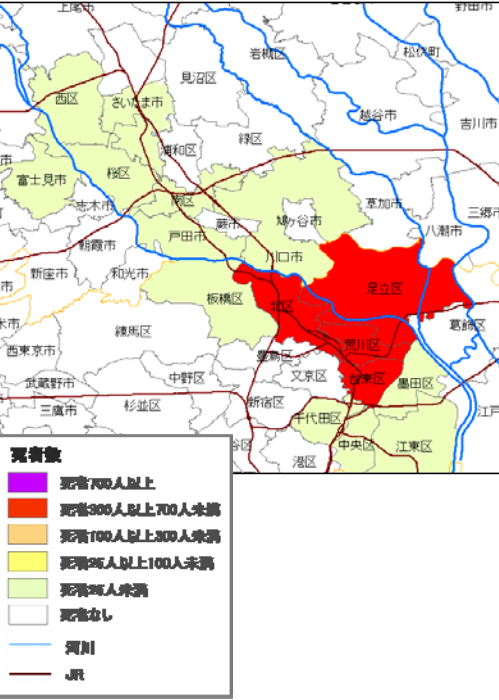
死者数: 約1,100人

避難率80%の場合

死者数: 約400人

最大浸水深

65歳以上人口



死者数

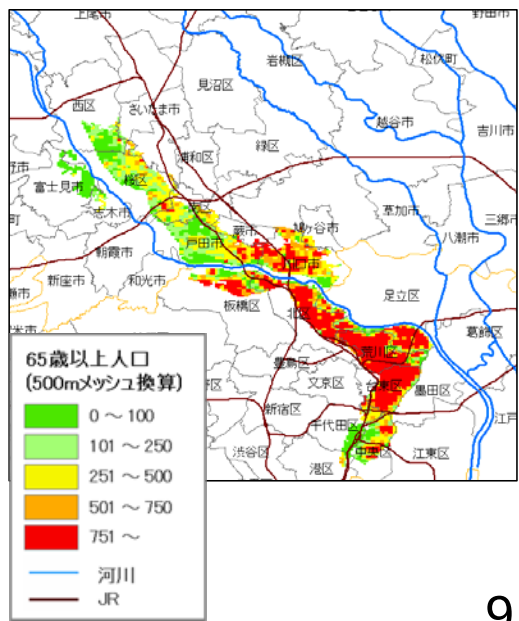
荒川区	約500人
足立区	約500人
北区	約500人
台東区	約400人
さいたま市桜区	約20人

死者数

荒川区	約300人
足立区	約300人
北区	約300人
台東区	約300人
さいたま市桜区	約10人

死者数

荒川区	約100人
足立区	約90人
北区	約90人
台東区	約90人
さいたま市桜区	— 人



注) 避難率0%の場合の死者数が10人以上の市町村を掲載

9. 死者数の分布：④-1 荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯)

ケース8: ポンプ運転 有 : 燃料補給 有 : 水門操作 有 : 排水ポンプ車 有 : 1/200年

想定堤防決壊箇所: 北区

避難率0%の場合

死者: 約1,900人

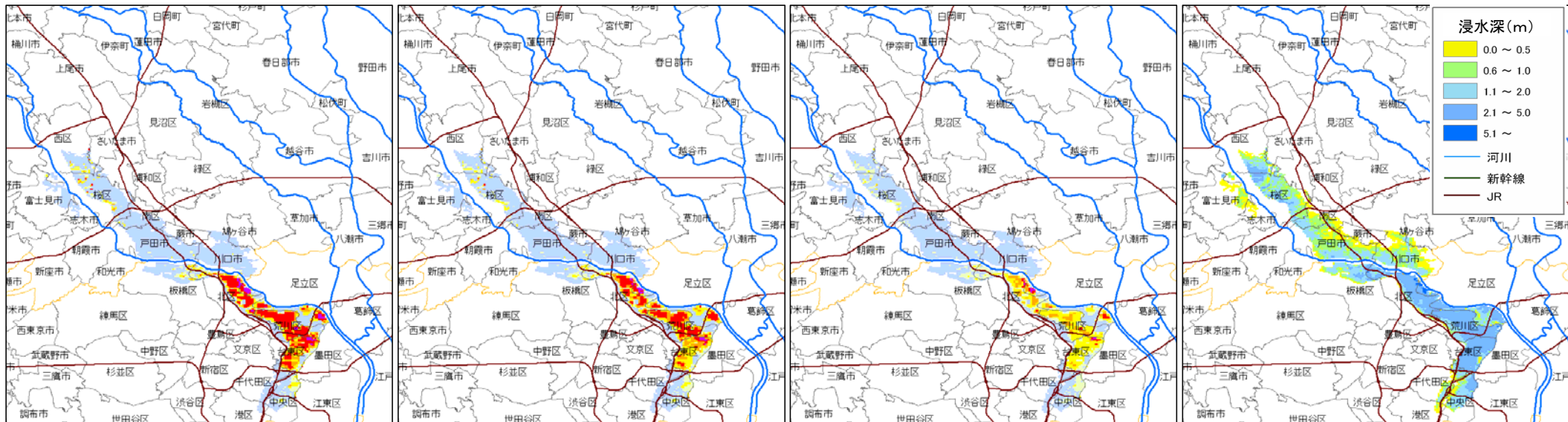
避難率40%の場合

死者: 約1,100人

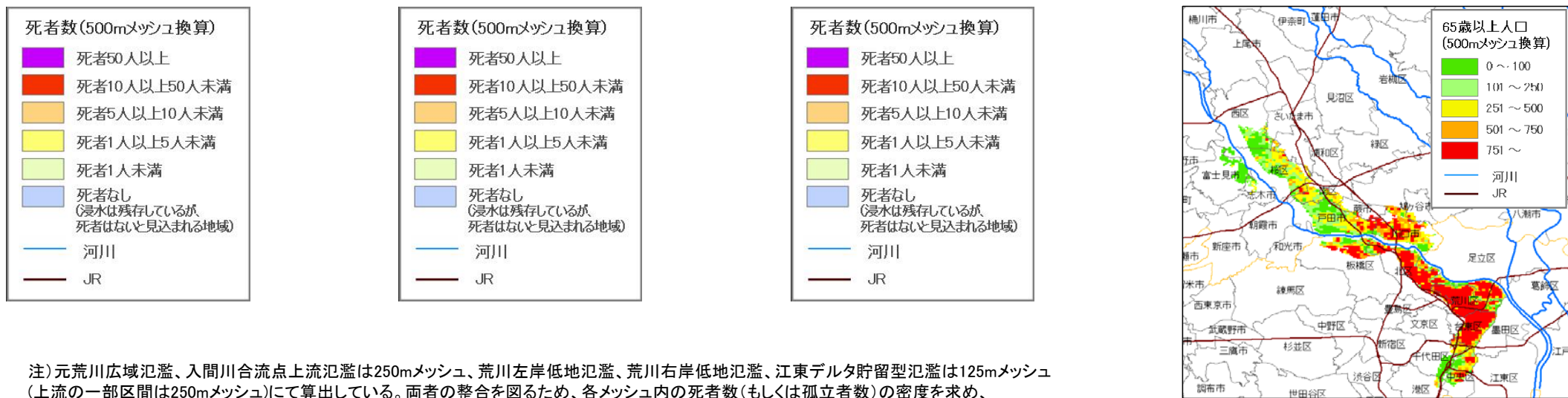
避難率80%の場合

死者: 約400人

最大浸水深



65歳以上人口



注) 元荒川広域氾濫、入間川合流点上流氾濫は250mメッシュ、荒川左岸低地氾濫、荒川右岸低地氾濫、江東デルタ貯留型氾濫は125mメッシュ(上流の一部区間は250mメッシュ)にて算出している。両者の整合を図るため、各メッシュ内の死者数(もしくは孤立者数)の密度を求め、利根川の算出に用いた500mメッシュに換算した上で、利根川と同様の閾値を用いた。

ケース1

ポンプ運転 無 : 燃料補給 無 : 水門操作 無 : 排水ポンプ車 無 : 1/200年

想定堤防決壊箇所: 墨田区

避難率0%の場合

死者数: 約3,500人

避難率40%の場合

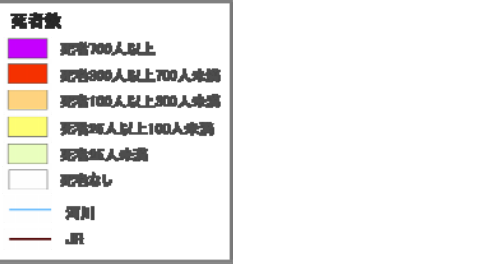
死者数: 約2,100人

避難率80%の場合

死者数: 約700人

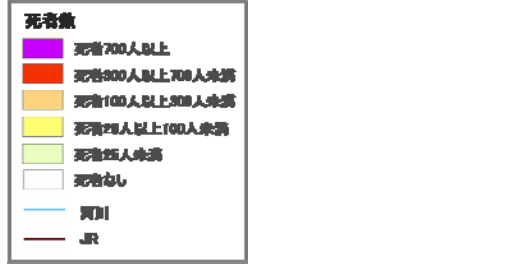
最大浸水深

65歳以上人口



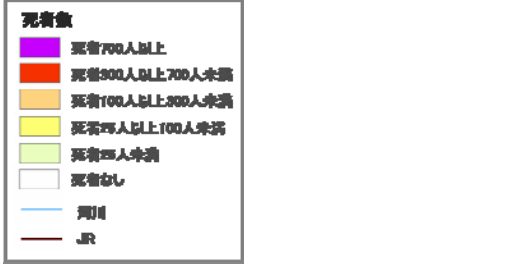
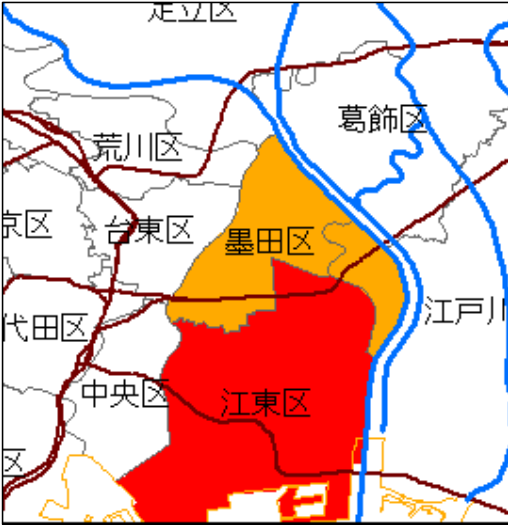
死者数

江東区	約2,200人
江戸川区	約600人
墨田区	約600人



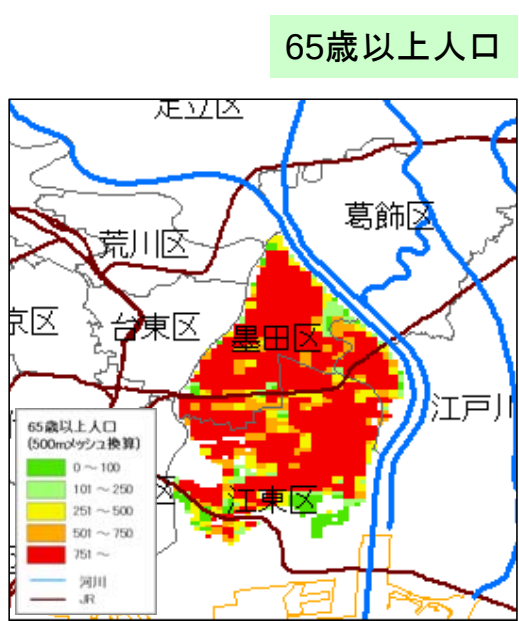
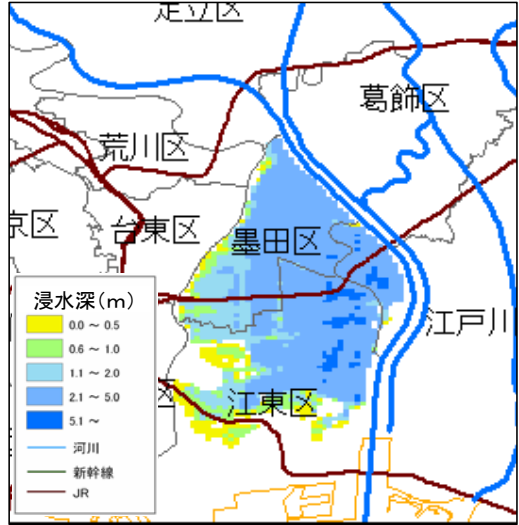
死者数

江東区	約1,300人
江戸川区	約400人
墨田区	約400人



死者数

江東区	約400人
江戸川区	約100人
墨田区	約100人



注) 避難率0%の場合の死者数が10人以上の市町村を掲載

11. 死者数の分布：⑤江東デルタ貯留型氾濫

ケース1:ポンプ運転 無 :燃料補給 無 :水門操作 無 :排水ポンプ車 無 :1/200年

想定堤防決壊箇所:墨田区

避難率0%の場合

死者:約3,500人

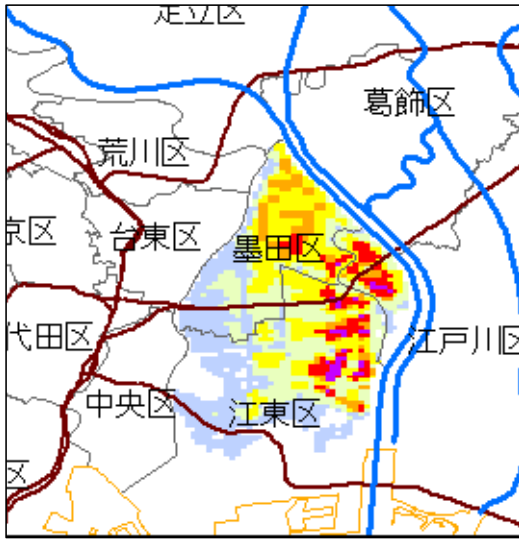
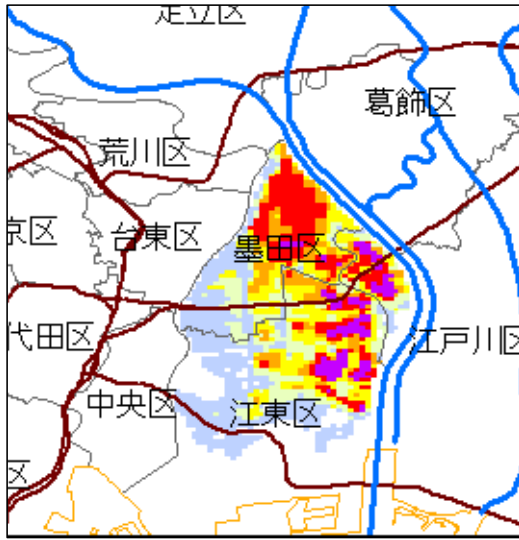
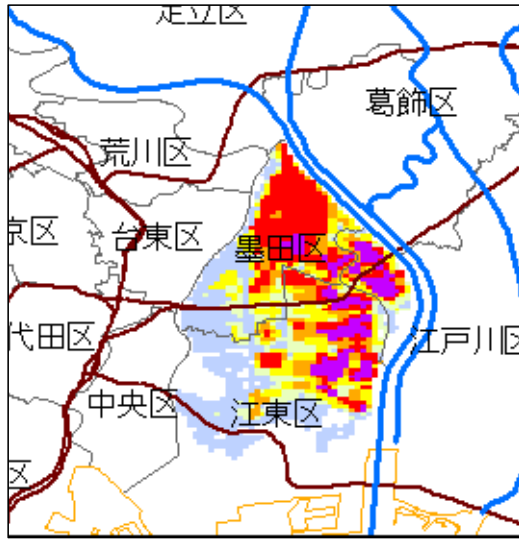
避難率40%の場合

死者:約2,100人

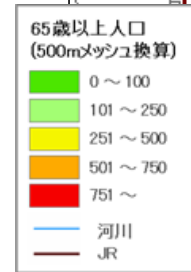
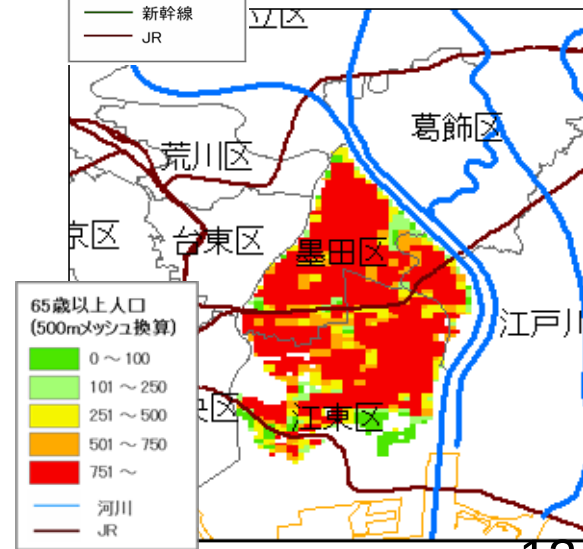
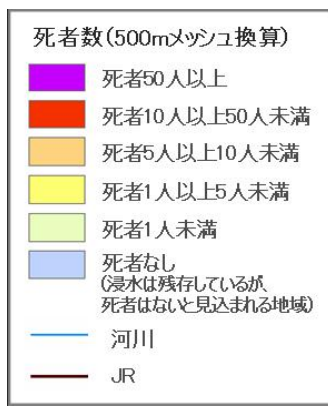
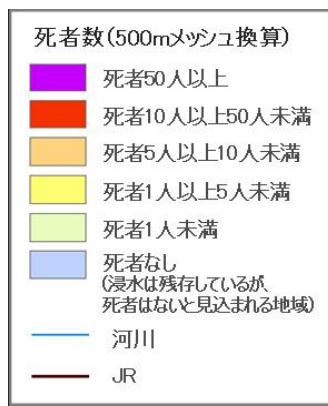
避難率80%の場合

死者:約700人

最大浸水深



65歳以上人口



注)元荒川広域氾濫、入間川合流点上流氾濫は250mメッシュ、荒川左岸低地氾濫、荒川右岸低地氾濫、江東デルタ貯留型氾濫は125mメッシュ(上流の一部区間は250mメッシュ)にて算出している。両者の整合を図るため、各メッシュ内の死者数(もしくは孤立者数)の密度を求め、利根川の算出に用いた500mメッシュに換算した上で、利根川と同様の閾値を用いた。

ケース8

ポンプ運転 有 : 燃料補給 有 : 水門操作 有 : 排水ポンプ車 有 : 1/200年

想定堤防決壊箇所: 墨田区

避難率0%の場合

死者数: 約800人

避難率40%の場合

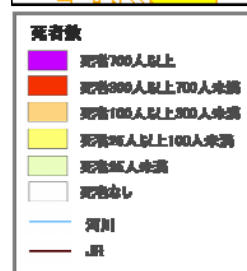
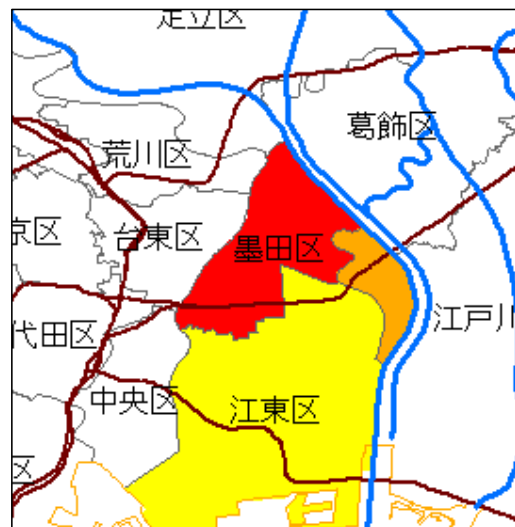
死者数: 約500人

避難率80%の場合

死者数: 約200人

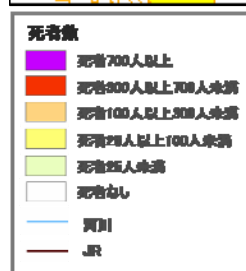
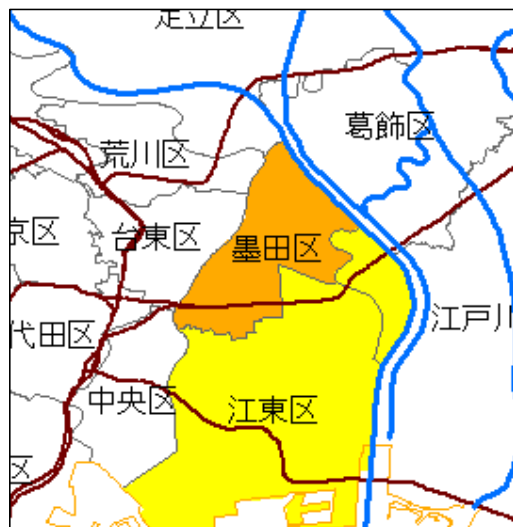
最大浸水深

65歳以上人口



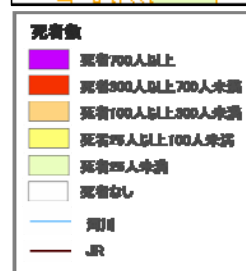
死者数

墨田区	約500人
江戸川区	約100人
江東区	約100人



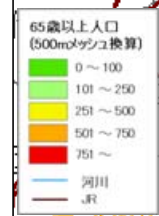
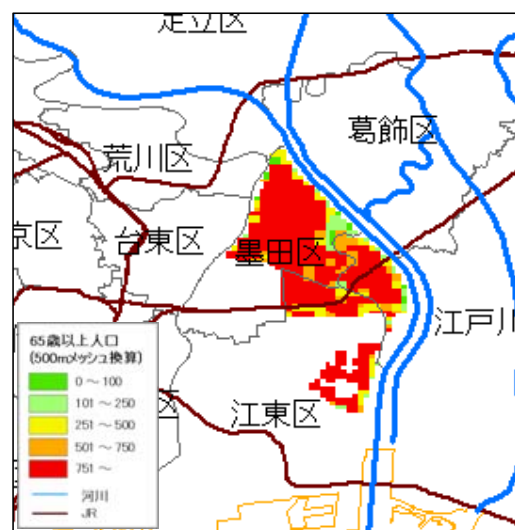
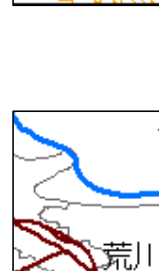
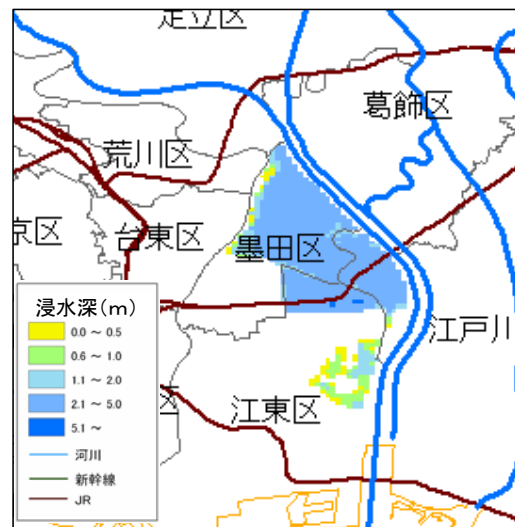
死者数

墨田区	約300人
江戸川区	約80人
江東区	約60人



死者数

墨田区	約100人
江戸川区	約30人
江東区	約20人



注) 避難率0%の場合の死者数が10人以上の市町村を掲載

13. 死者数の分布：⑤江東デルタ貯留型氾濫

ケース8:ポンプ運転 有 :燃料補給 有 :水門操作 有 :排水ポンプ車 有 :1/200年

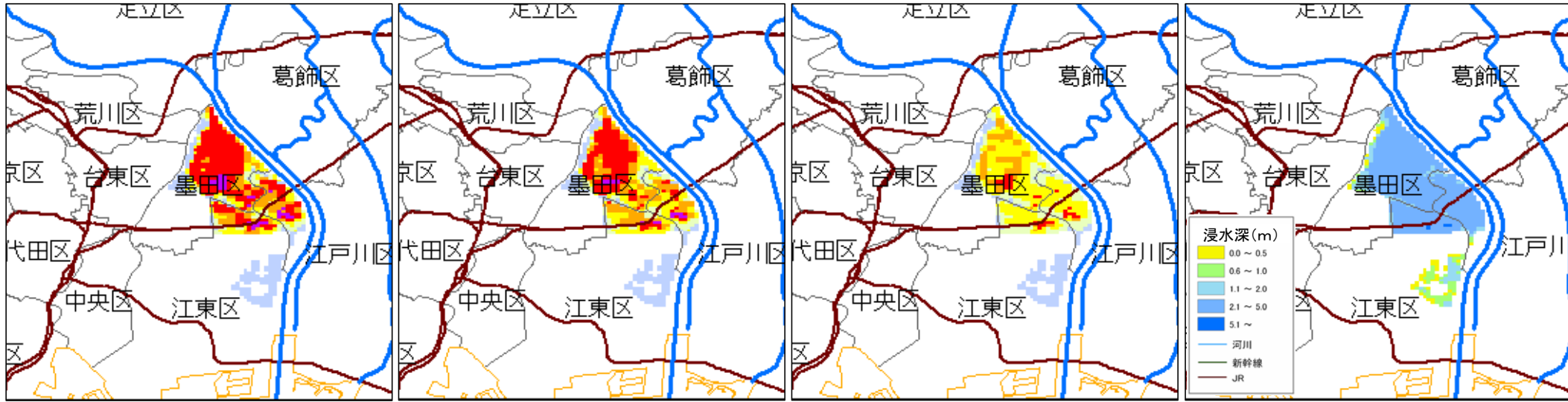
想定堤防決壊箇所:墨田区

避難率0%の場合
死者:約800人

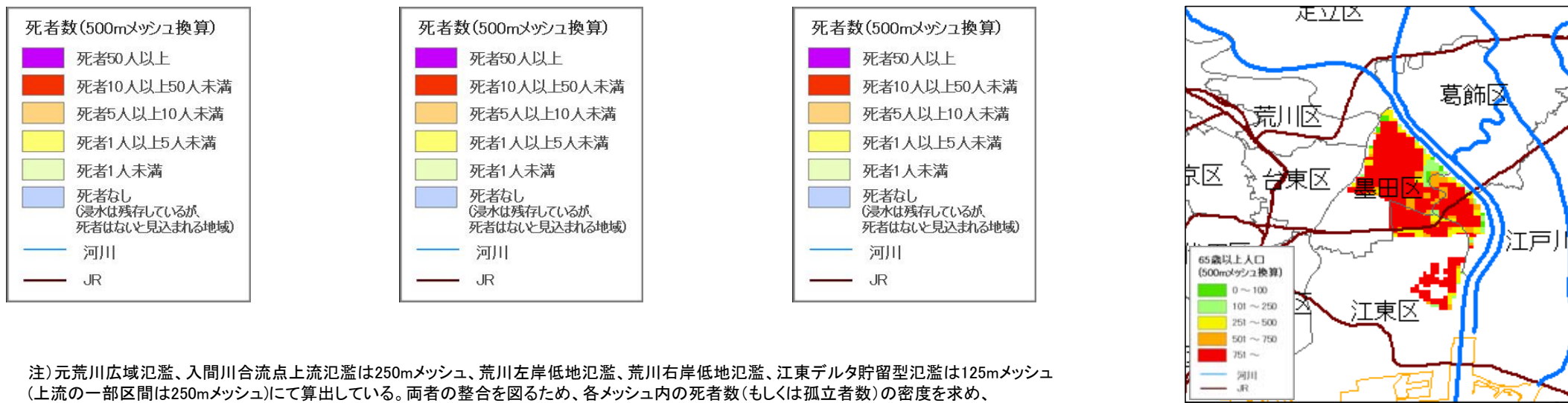
避難率40%の場合
死者:約500人

避難率80%の場合
死者:約200人

最大浸水深



65歳以上人口



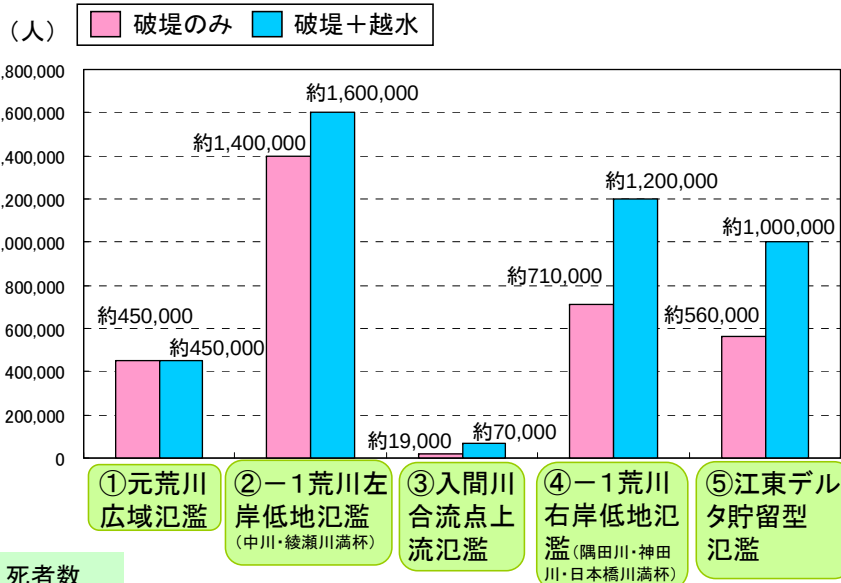
注)元荒川広域氾濫、入間川合流点上流氾濫は250mメッシュ、荒川左岸低地氾濫、荒川右岸低地氾濫、江東デルタ貯留型氾濫は125mメッシュ(上流の一部区間は250mメッシュ)にて算出している。両者の整合を図るため、各メッシュ内の死者数(もしくは孤立者数)の密度を求め、利根川の算出に用いた500mメッシュに換算した上で、利根川と同様の閾値を用いた。

14. 各類型区分別の死者数(ケース1)

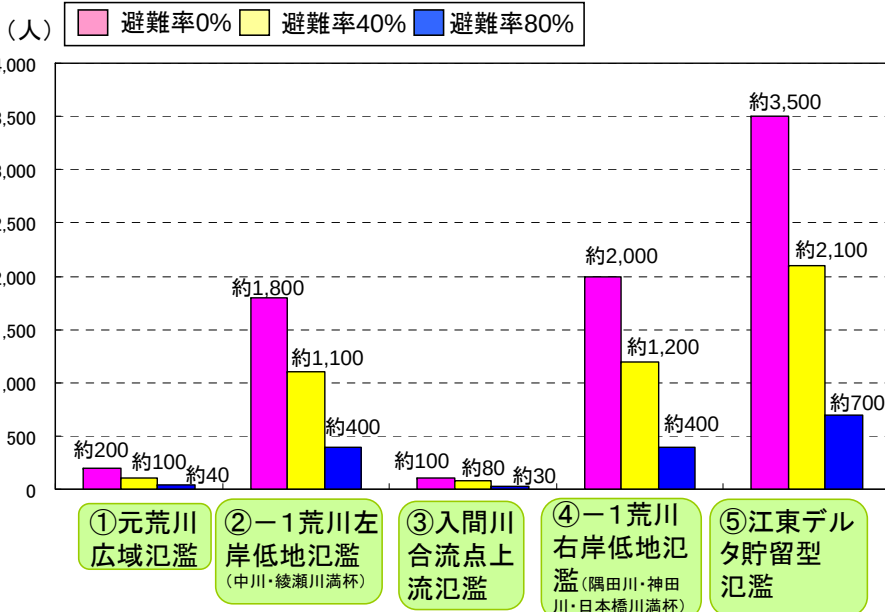
ポンプ運転:無 燃料補給:無 水門操作:無 ポンプ車:無 1/200年

- 浸水地域内人口は、②-1荒川左岸低地氾濫、④-1荒川右岸低地氾濫、⑤江東デルタ貯留型氾濫の順に大きい。死者数については、⑤江東デルタ貯留型氾濫、④-1荒川右岸低地氾濫、②-1荒川左岸低地氾濫の順に大きい。

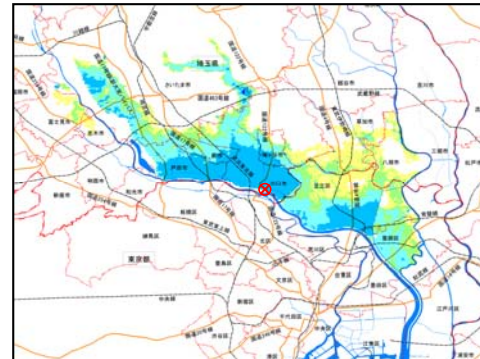
浸水区域内人口



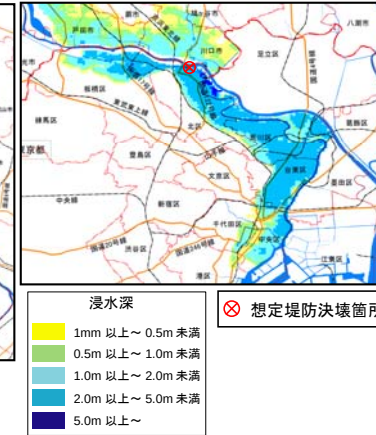
死者数



②-1荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯)



④-1荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯)



⑤江東デルタ貯留型氾濫



②-1荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯)
死者数(避難率40%)

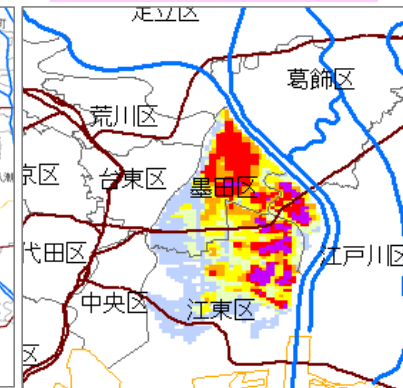
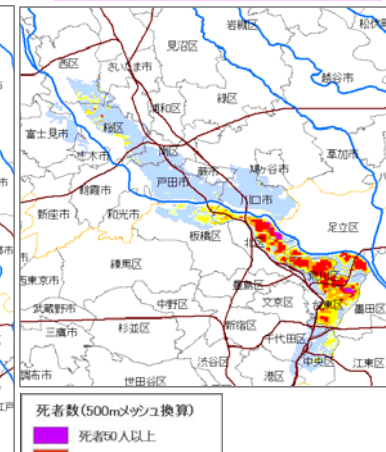
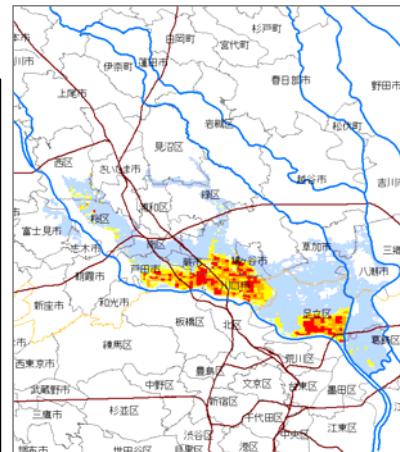
死者:約1,100人

④-1荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯)
死者数(避難率40%)

死者:約1,200人

⑤江東デルタ貯留型氾濫
死者数(避難率40%)

死者:約2,100人

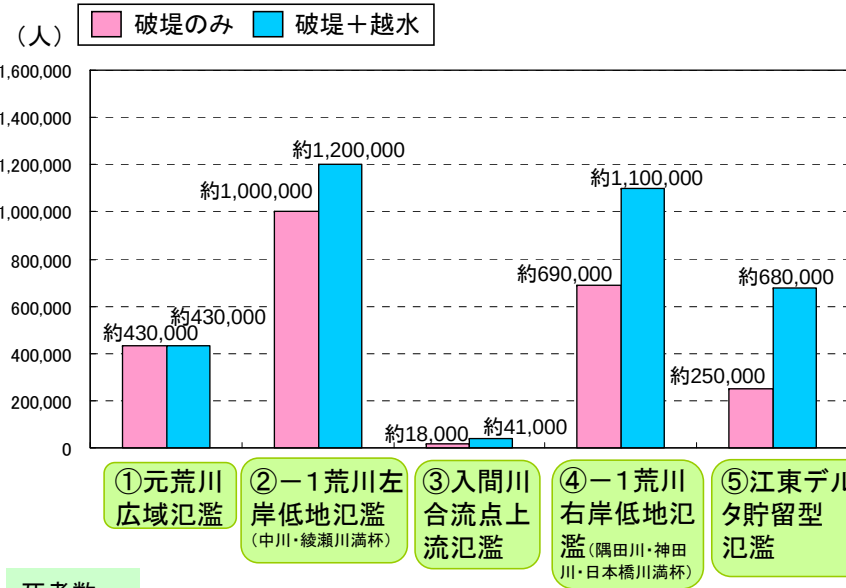


15. 各類型区分別の死者数(ケース8)

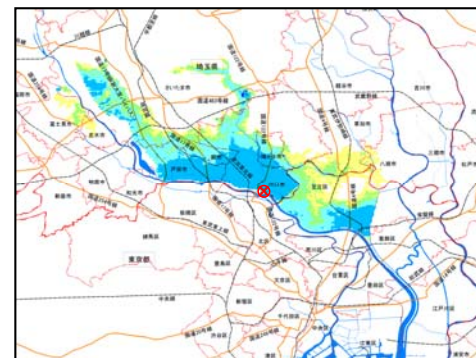
ポンプ運転:有 燃料補給:有 水門操作:有 ポンプ車:有 1/200年

- 浸水地域内人口は、②-1荒川左岸低地氾濫、④-1荒川右岸低地氾濫、⑤江東デルタ貯留型氾濫の順に大きい。死者数については、④-1荒川右岸低地氾濫、②-1荒川左岸低地氾濫、⑤江東デルタ貯留型氾濫の順に大きい。

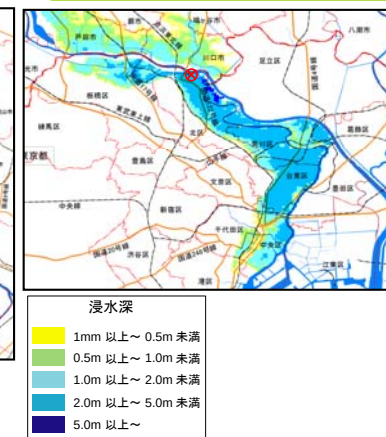
浸水区域内人口



②-1荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯)



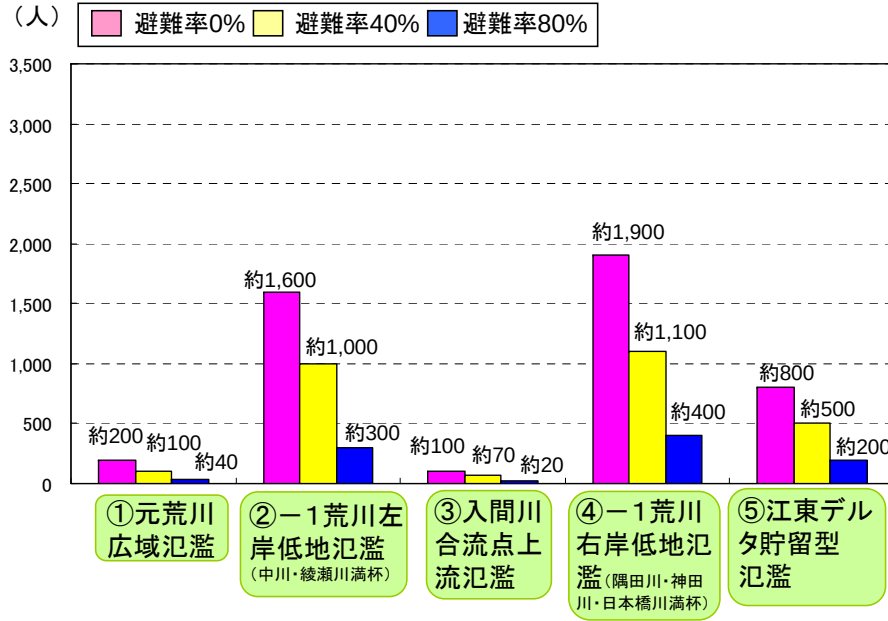
④-1荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯)



⑤江東デルタ貯留型氾濫



死者数



②-1荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯) 死者数(避難率40%)

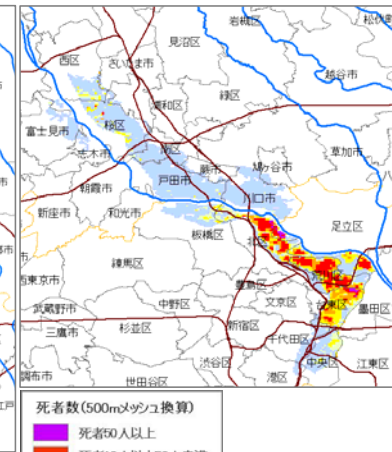
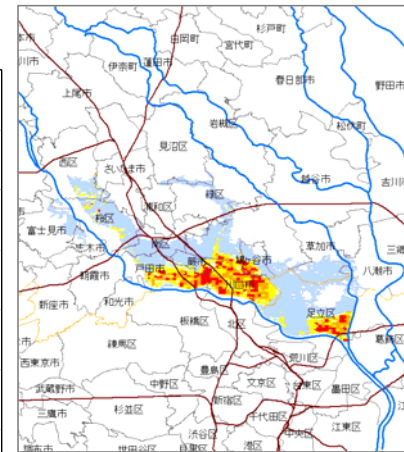
死者:約1,000人

④-1荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯) 死者数(避難率40%)

死者:約1,100人

⑤江東デルタ貯留型氾濫 死者数(避難率40%)

死者:約500人



16. 200年に1度の発生確率の洪水により堤防が決壊した場合の死者数とその洪水量の約3割増の洪水量(約1000年に1度の発生確率)により堤防が決壊した場合の死者数の比較(1)

・ 200年に1度の発生確率の洪水により堤防が決壊したケースとその洪水量の約3割増の洪水量(約1000年に1度の発生確率)により堤防が決壊したケースを比較すると、元荒川広域氾濫のケースでは、**浸水面積、浸水区域内人口は1.2倍～1.3倍の増加であるが、浸水深が増加することにより、死者数は約2.9倍～3.1倍と大幅に増加。**また、入間川合流点上流氾濫のケースでは、**浸水面積、浸水区域内人口は1.1倍～1.2倍の増加であるが、浸水深が増加することにより、死者数は5.9倍～6.2倍と大幅に増加。**

①元荒川広域氾濫

ケース1、ケース1'の死者数の比較

浸水面積 1.3倍、浸水区域内人口 1.2倍

ケース8、ケース8'の死者数の比較

浸水面積 1.3倍、浸水区域内人口 1.3倍

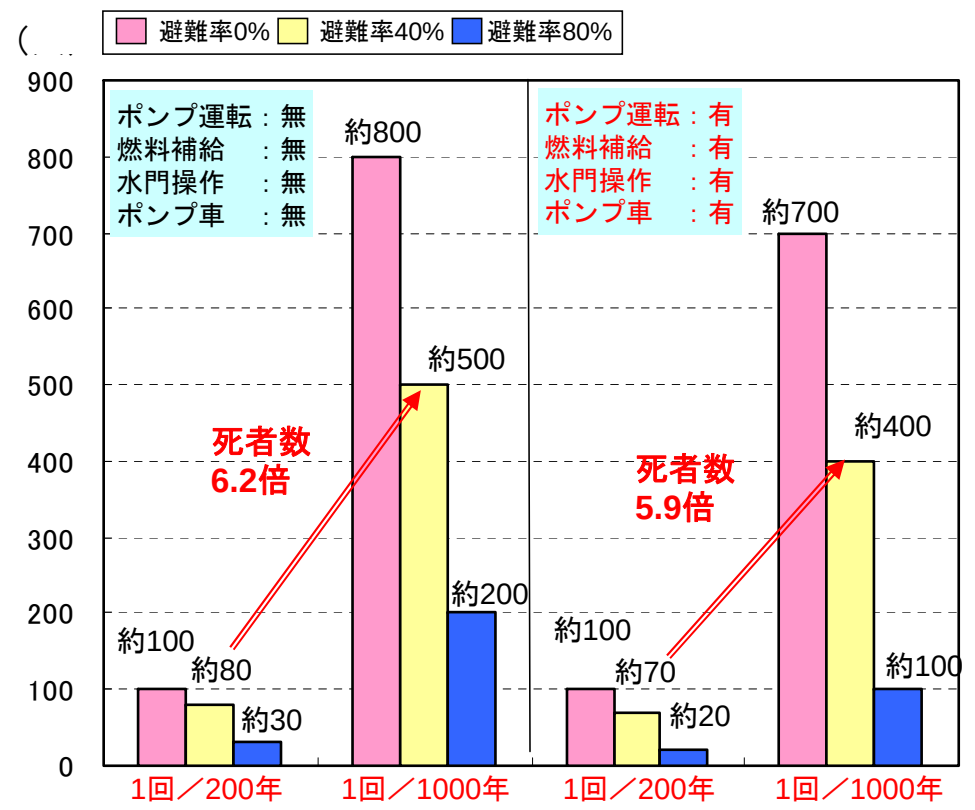
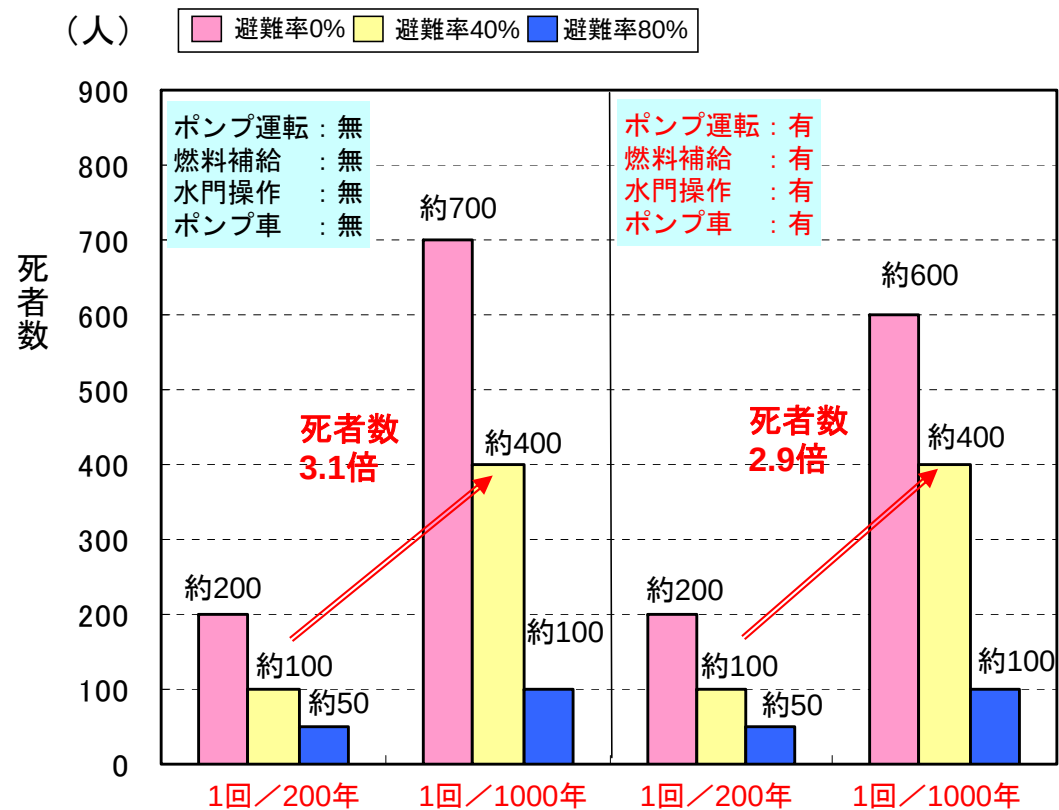
③入間川合流点上流氾濫

ケース1、ケース1'の死者数の比較

浸水面積 1.1倍、浸水区域内人口 1.2倍

ケース8、ケース8'の死者数の比較

浸水面積 1.1倍、浸水区域内人口 1.2倍



200年に1回の確率で発生する洪水 : 流域平均雨量約550mm/3日、洪水流量 約14,000m³/s (岩淵水門(上)水位観測所)
 1,000年に1回の確率で発生する洪水 : 流域平均雨量約680mm/3日、洪水流量 約18,000m³/s (同上)

(注) 浸水面積及び浸水区域内人口は、堤防決壊地点からの氾濫による影響範囲のもの(越水地点からの氾濫は死者が生じにくい浅い水深の場合が多いことから、これを除いた) 死者数は、越水による氾濫箇所も含む。

16. 200年に1度の発生確率の洪水により堤防が決壊した場合の死者数とその洪水量の約3割増の洪水量(約1000年に1度の発生確率)により堤防が決壊した場合の死者数の比較(2)

・ 200年に1度の発生確率の洪水により堤防が決壊したケースとその洪水量の約3割増の洪水量(約1000年に1度の発生確率)により堤防が決壊したケースを比較すると、荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯)のケースでは、**浸水面積、浸水区域内人口は1.4倍～1.5倍**の増加であるが、浸水深が増加することにより、**死者数は2.1倍と大幅に増加**。また、荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯)のケースでは、**浸水面積、浸水区域内人口は1.0倍**の増加であるが、浸水深が増加することにより、**死者数は2.3倍～2.6倍と大幅に増加**。

②ー1 荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯)

④ー1 荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯)

ケース1、ケース1'の死者数の比較

ケース8、ケース8'の死者数の比較

ケース1、ケース1'の死者数の比較

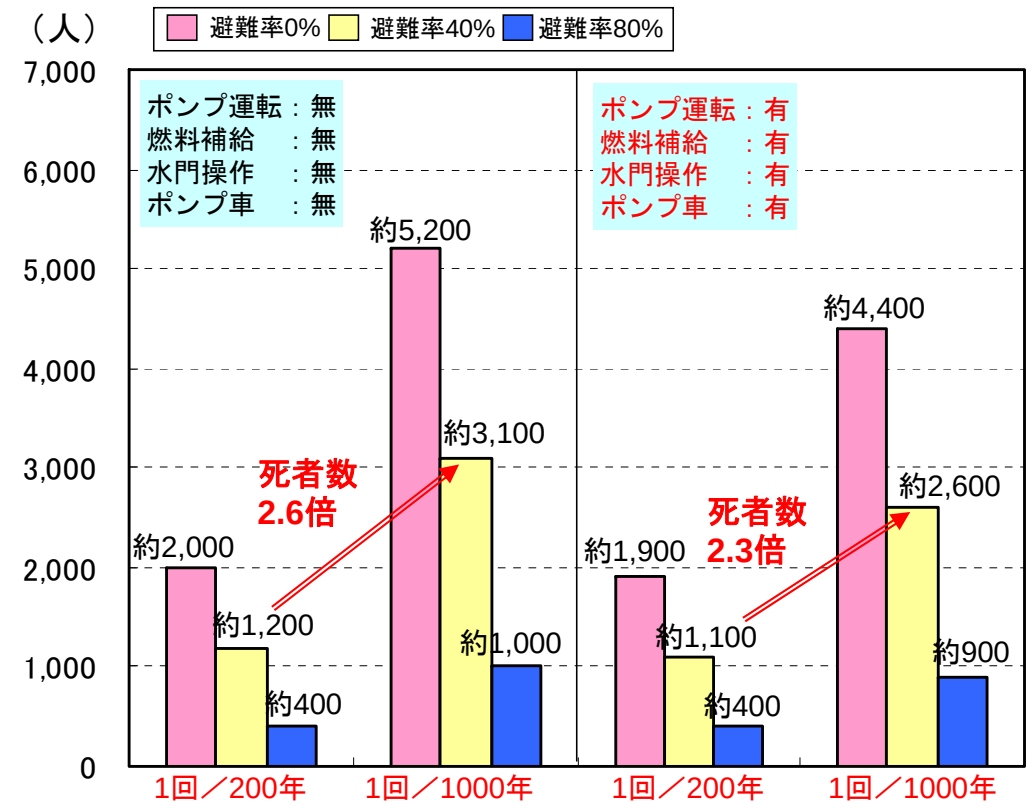
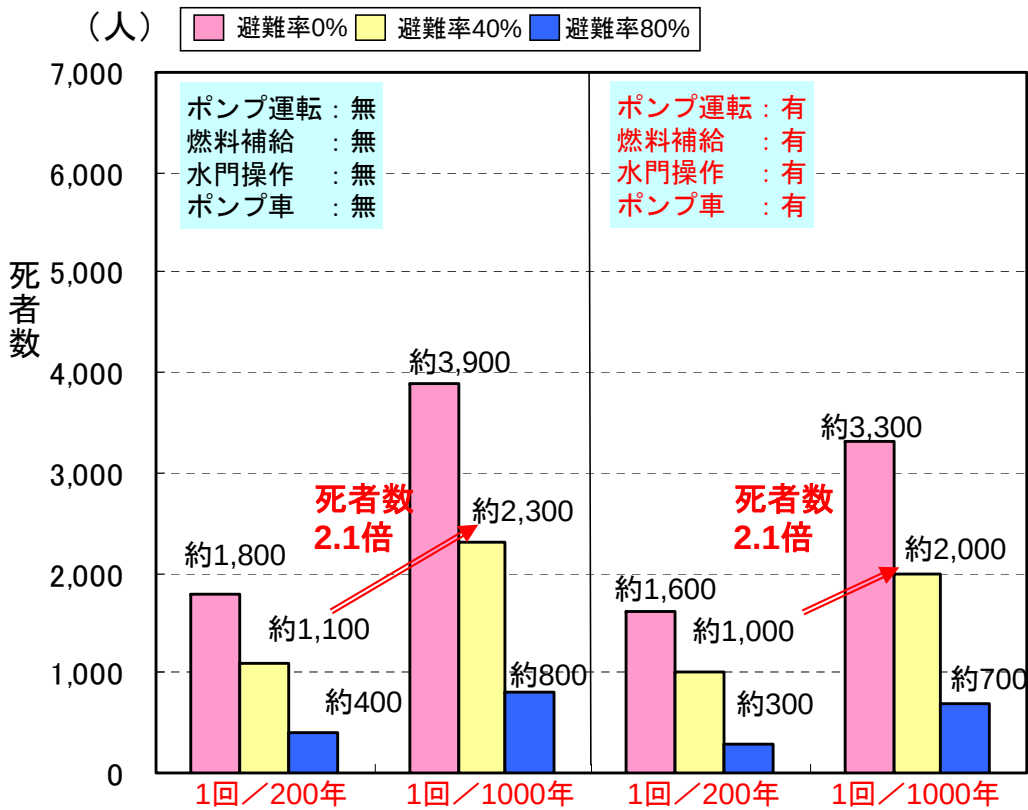
ケース8、ケース8'の死者数の比較

浸水面積 1.4倍、浸水区域内人口 1.4倍

浸水面積 1.5倍、浸水区域内人口 1.5倍

浸水面積 1.0倍、浸水区域内人口 1.0倍

浸水面積 1.0倍、浸水区域内人口 1.0倍



1,000m³/s (岩淵水門(上)水位観測所)
 1,000年に1回の確率で発生する洪水 : 流域平均雨量約680mm/3日、洪水流量 約18,000m³/s (同上)

(注) 浸水面積及び浸水区域内人口は、堤防決壊地点からの氾濫による影響範囲のもの(越水地点からの氾濫は死者が生じにくい浅い水深の場合が多いことから、これを除いた) 死者数は、越水による氾濫箇所も含む。

16. 200年に1度の発生確率の洪水により堤防が決壊した場合の死者数とその洪水量の約3割増の洪水量(約1000年に1度の発生確率)により堤防が決壊した場合の死者数の比較(3)

- 200年に1度の発生確率の洪水により堤防が決壊したケースとその洪水量の約3割増の洪水量(約1000年に1度の発生確率)により堤防が決壊したケースを比較すると、江東デルタ貯留型氾濫のケースでは、**浸水面積、浸水区域内人口は1.1倍～1.4倍の増加であるが、浸水深が増加することにより、死者数は2.1倍～2.4倍と大幅に増加。**

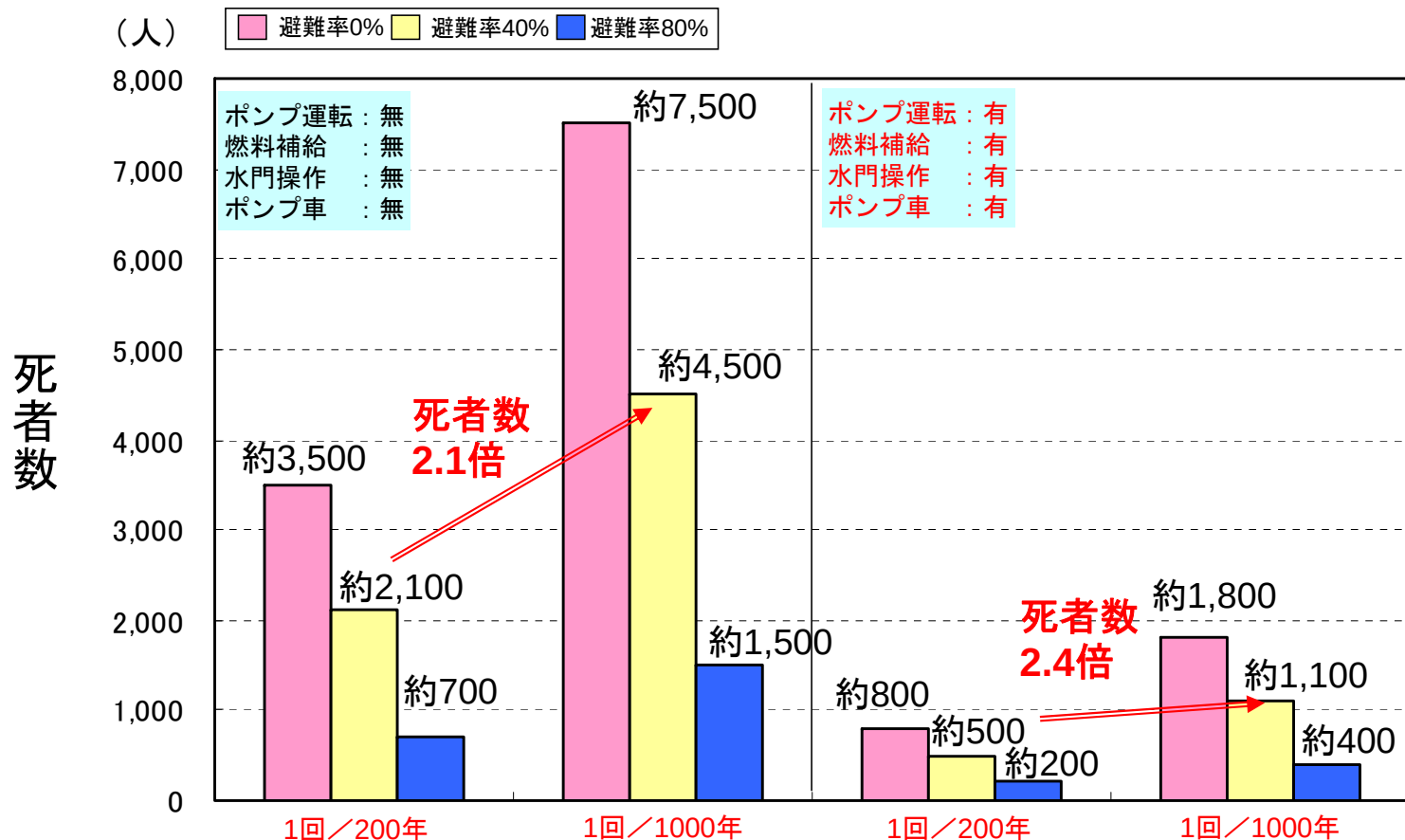
⑤江東デルタ貯留型氾濫

ケース1、ケース1'の死者数の比較

浸水面積 **1.1倍**、浸水区域内人口 **1.1倍**

ケース8、ケース8'の死者数の比較

浸水面積 **1.3倍**、浸水区域内人口 **1.4倍**



200年に1回の確率で発生する洪水：流域平均雨量約550mm/3日、洪水流量 約14,000m³/s (岩淵水門(上)水位観測所)

1,000年に1回の確率で発生する洪水：流域平均雨量約680mm/3日、洪水流量 約18,000m³/s (同上)

(注) 浸水面積及び浸水区域内人口は、堤防決壊地点からの氾濫による影響範囲のもの(越水地点からの氾濫は死者が生じにくい浅い水深の場合が多いことから、これを除いた) 死者数は、越水による氾濫箇所も含む。

17. 孤立者数の分布：②-1 荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯)

想定堤防決壊箇所：川口市

孤立者数

ケース1：避難率40%の場合

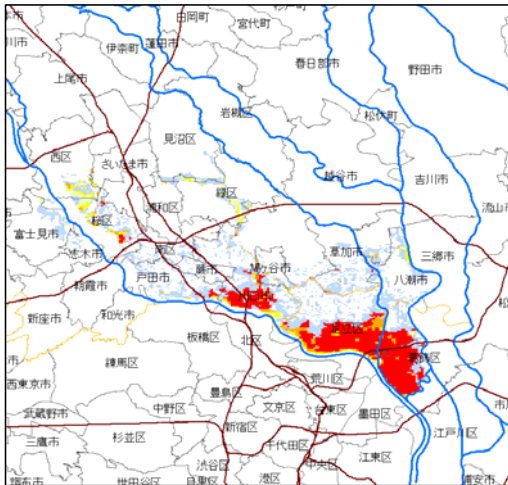
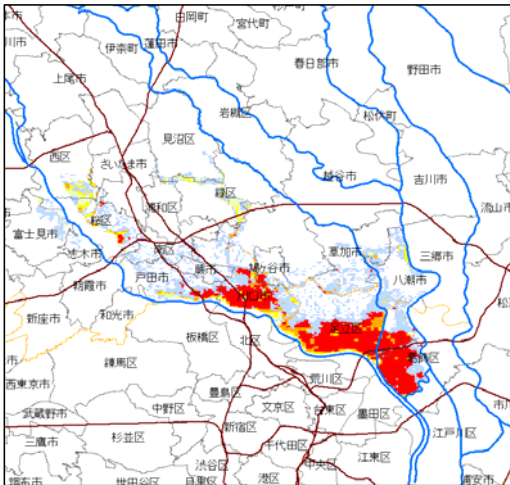
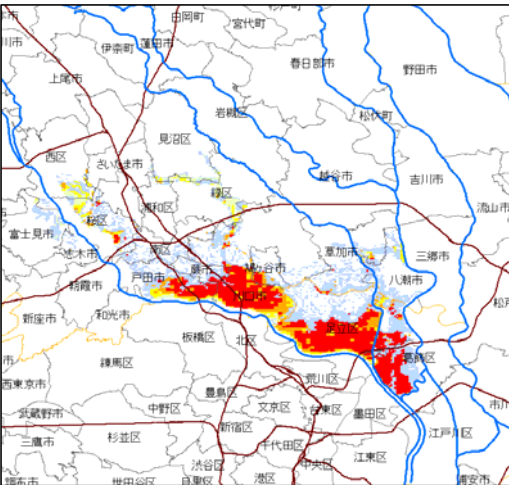
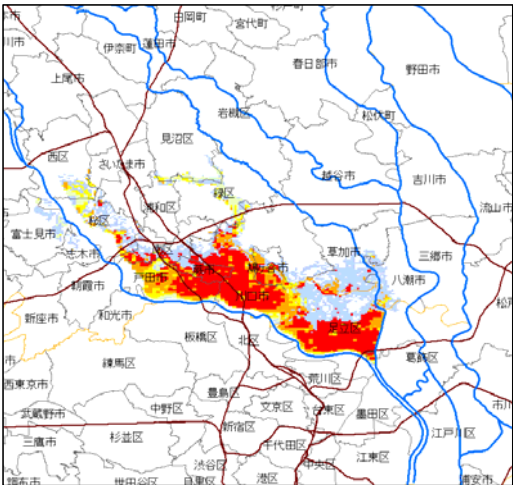
ポンプ運転 無：燃料補給 無：水門操作 無：排水ポンプ車 無：1/200年

1日後 孤立者：約49万人

2日後 孤立者：約41万人

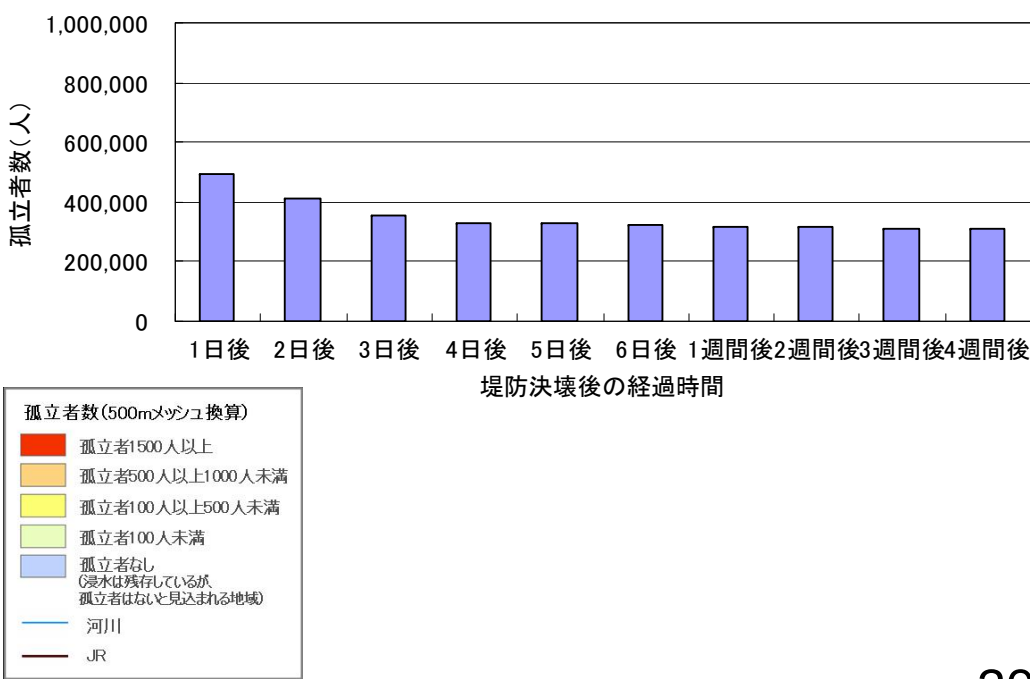
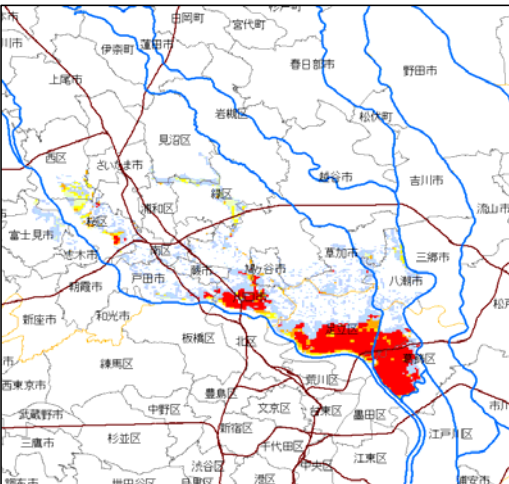
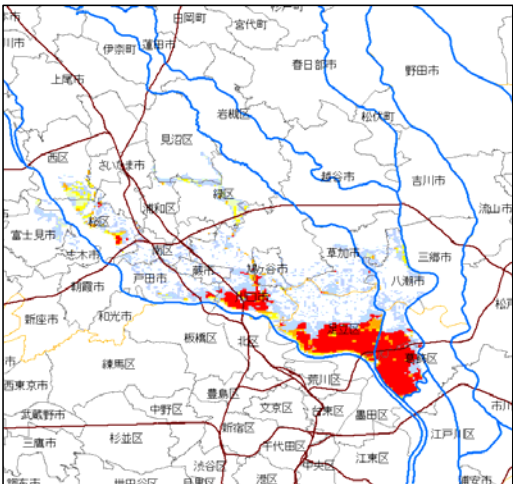
3日後 孤立者：約36万人

1週間後 孤立者：約32万人



2週間後 孤立者：約31万人

4週間後 孤立者：約31万人



17. 孤立者数の分布：②-1 荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯)

想定堤防決壊箇所：川口市

孤立者数

ケース8：避難率40%の場合

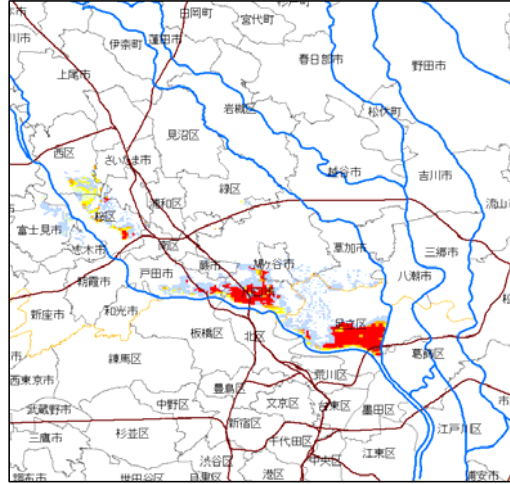
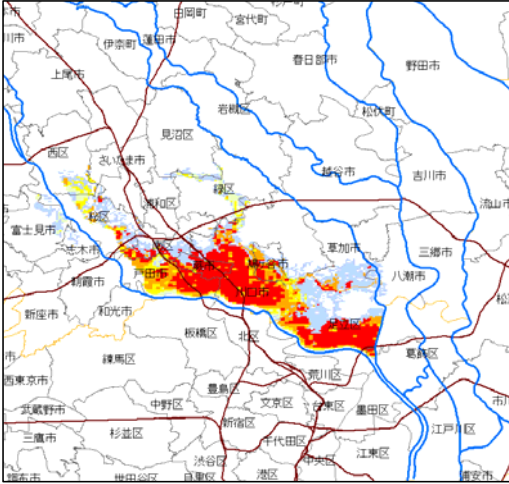
ポンプ運転 有：燃料補給 有：水門操作 有：排水ポンプ車 有：1/200年

1日後 孤立者：約45万人

2日後 孤立者：約14万人

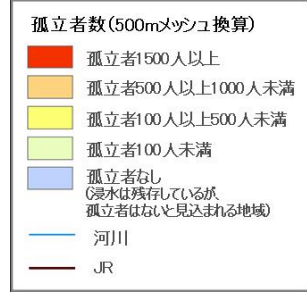
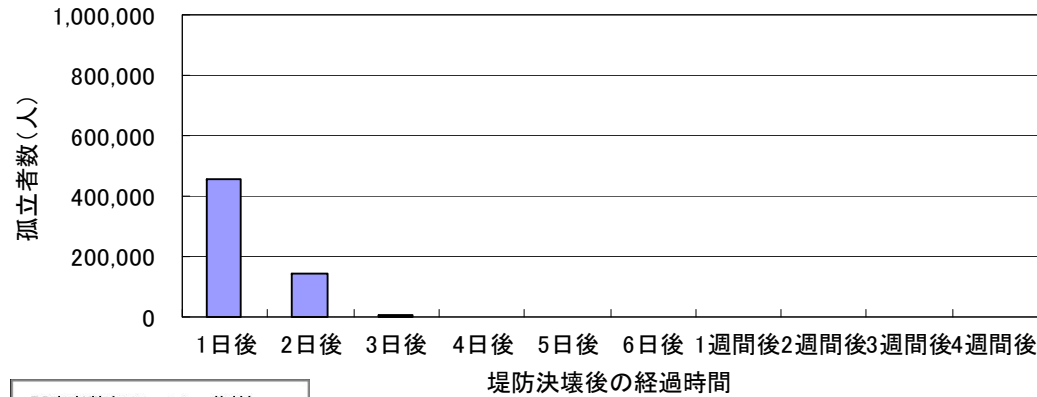
3日後 孤立者：約4,800人

1週間後 孤立者：— 人



2週間後 孤立者：— 人

4週間後 孤立者：— 人



17. 孤立者数の分布：④-1 荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯)

想定堤防決壊箇所：北区

孤立者数

ケース1：避難率40%の場合

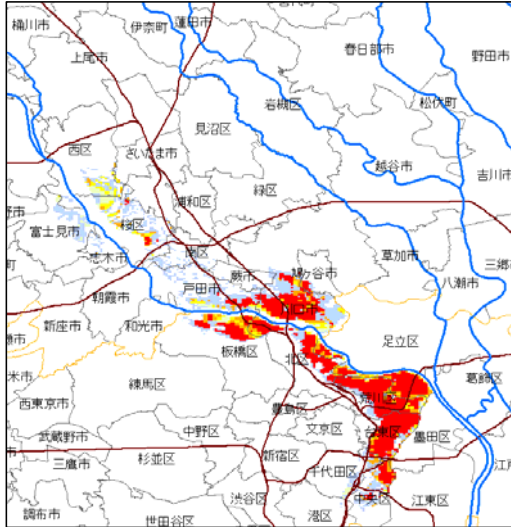
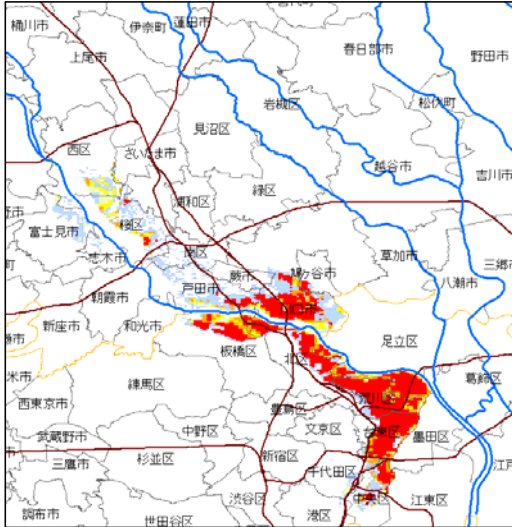
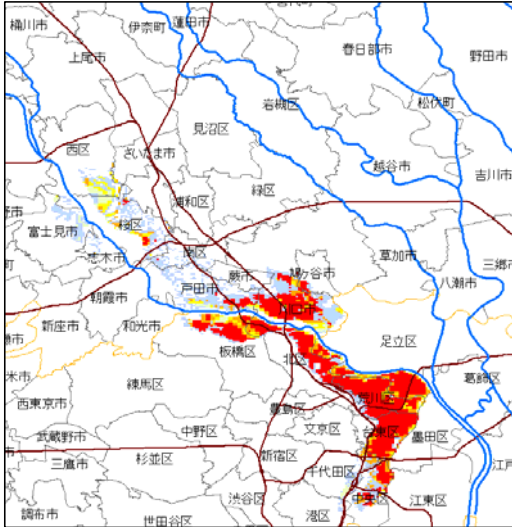
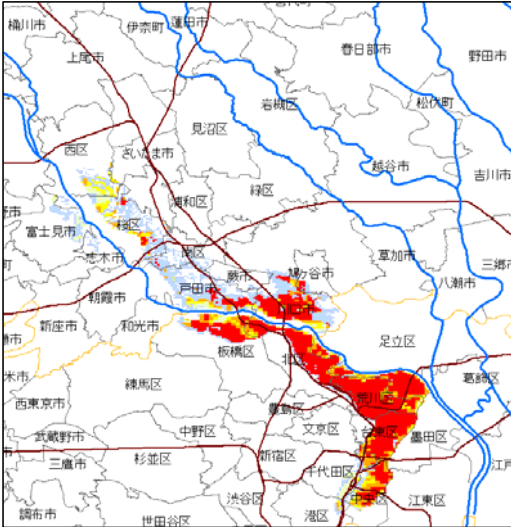
ポンプ運転 無：燃料補給 無：水門操作 無：排水ポンプ車 無：1/200年

1日後 孤立者：約51万人

2日後 孤立者：約46万人

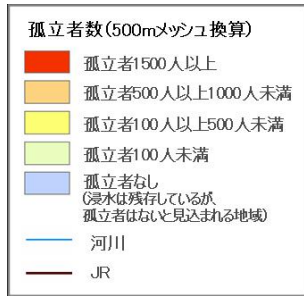
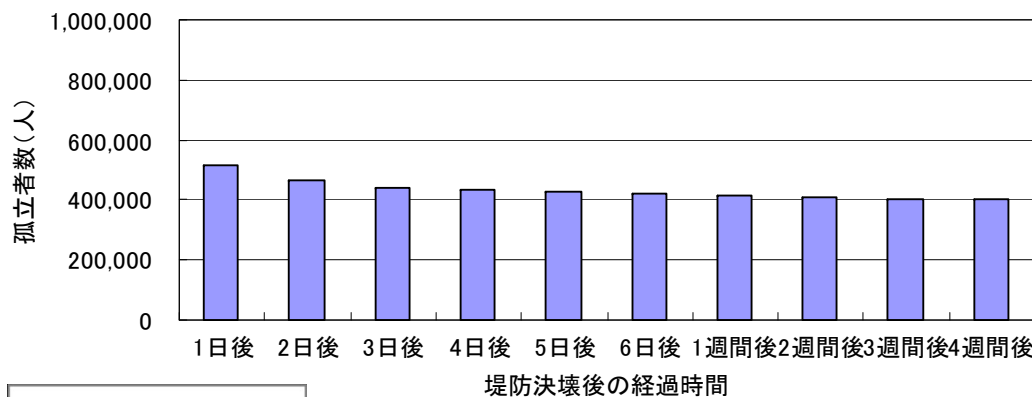
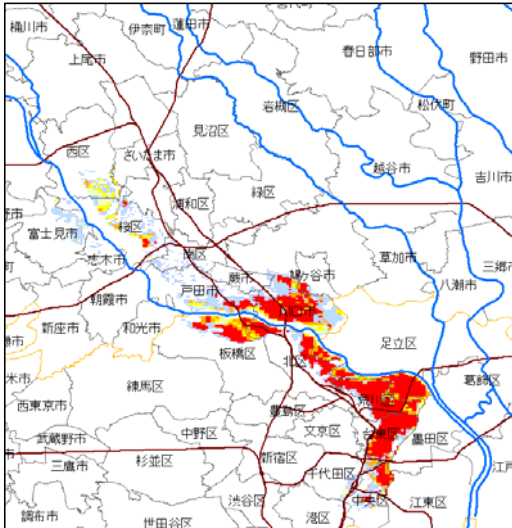
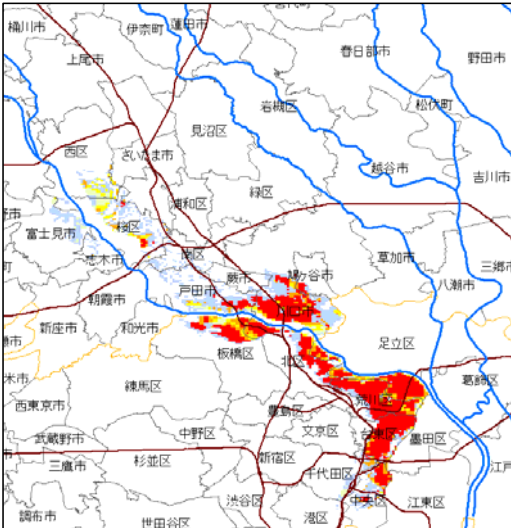
3日後 孤立者：約44万人

1週間後 孤立者：約42万人



2週間後 孤立者：約41万人

4週間後 孤立者：約40万人



17. 孤立者数の分布：④-1 荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯)

想定堤防決壊箇所：北区

孤立者数

ケース8：避難率40%の場合

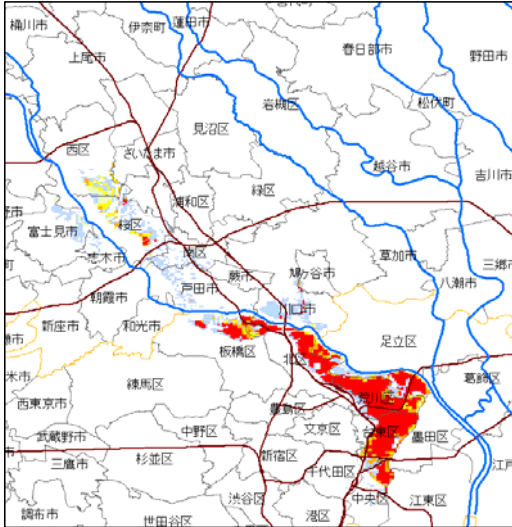
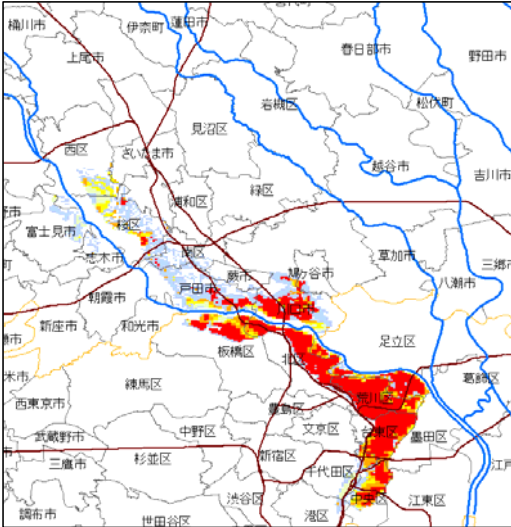
ポンプ運転 有：燃料補給 有：水門操作 有：排水ポンプ車 有：1/200年

1日後 孤立者：約49万人

2日後 孤立者：約33万人

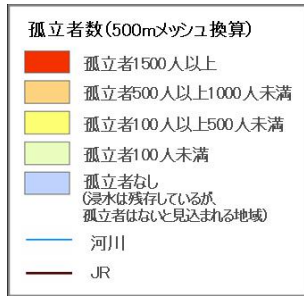
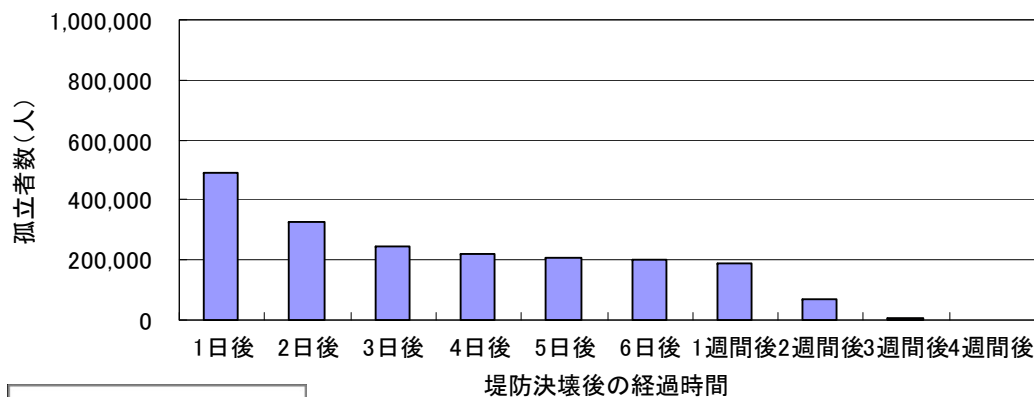
3日後 孤立者：約25万人

1週間後 孤立者：約19万人



2週間後 孤立者：約69,000人

4週間後 孤立者：— 人



17. 孤立者数の分布：⑤江東デルタ貯留型氾濫

想定堤防決壊箇所：墨田区

孤立者数

ケース1：避難率40%の場合

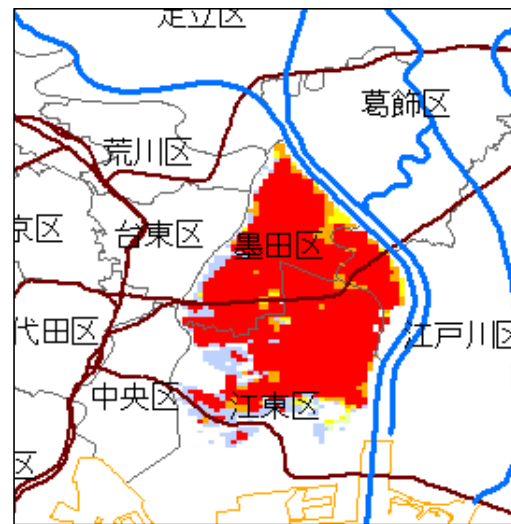
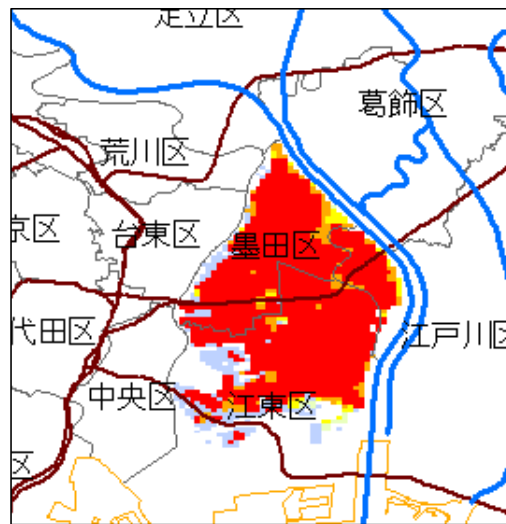
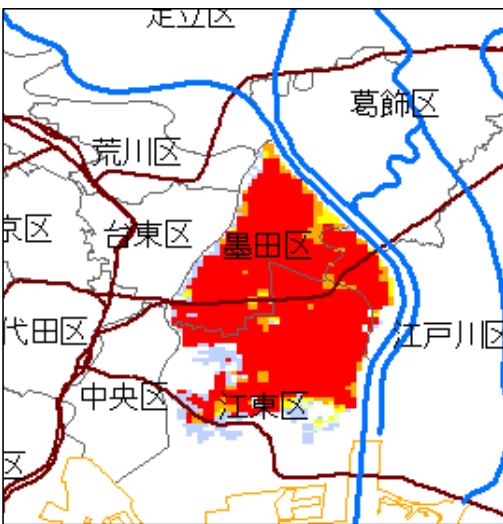
ポンプ運転 無：燃料補給 無：水門操作 無：排水ポンプ車 無：1/200年

1日後 孤立者：約43万人

2日後 孤立者：約44万人

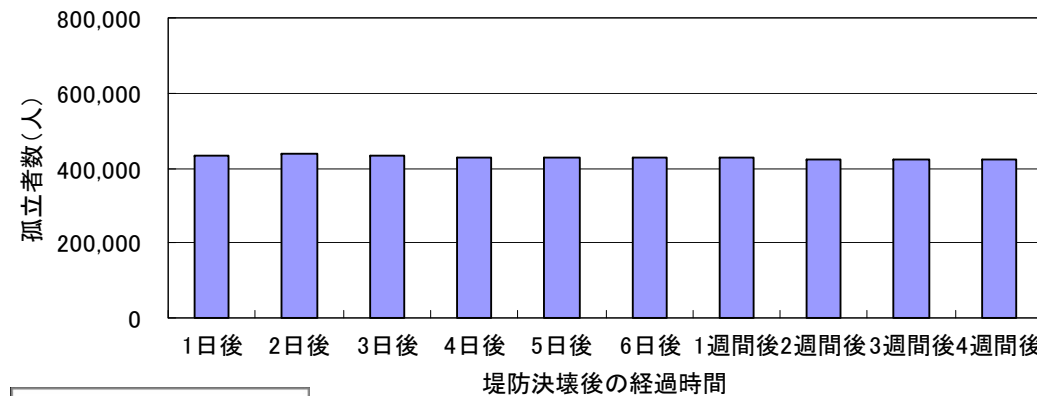
3日後 孤立者：約43万人

1週間後 孤立者：約43万人



2週間後 孤立者：約42万人

4週間後 孤立者：約42万人



注) 上流側での越水により生じる孤立者が減少

17. 孤立者数の分布：⑤江東デルタ貯留型氾濫

想定堤防決壊箇所：墨田区

孤立者数

ケース8：避難率40%の場合

ポンプ運転 有：燃料補給 有：水門操作 有：排水ポンプ車 有：1/200年

1日後 孤立者：約22万人

2日後 孤立者：約12万人

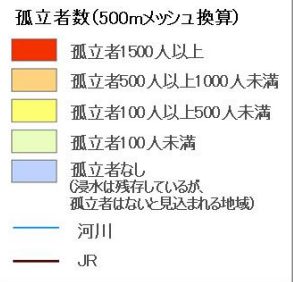
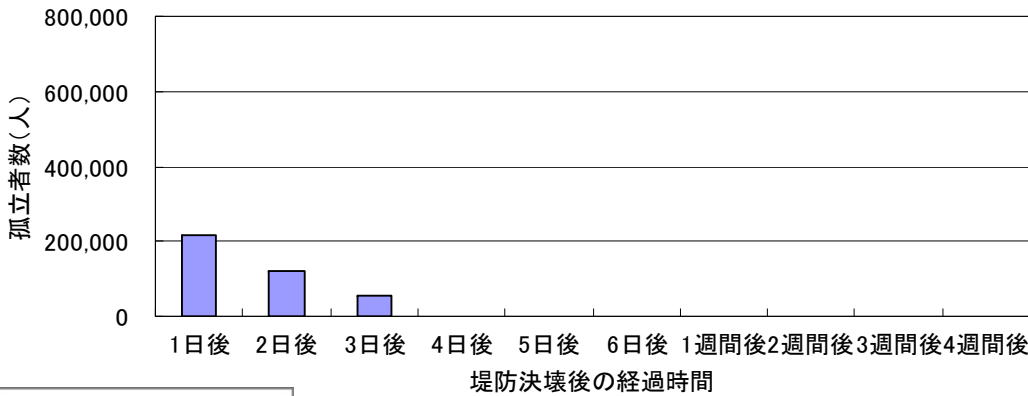
3日後 孤立者：約57,000人

1週間後 孤立者：一人



2週間後 孤立者：一人

4週間後 孤立者：一人



注) 上流側での越水により生じる孤立者が減少

18. 救助活動後の孤立者数の推移(避難率40%^{注1}:②-1荒川左岸低地氾濫(中川・綾瀬川満杯))

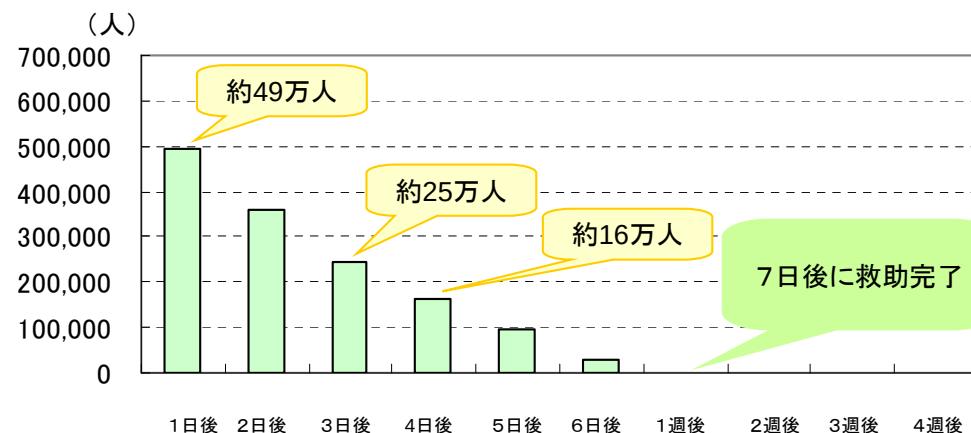
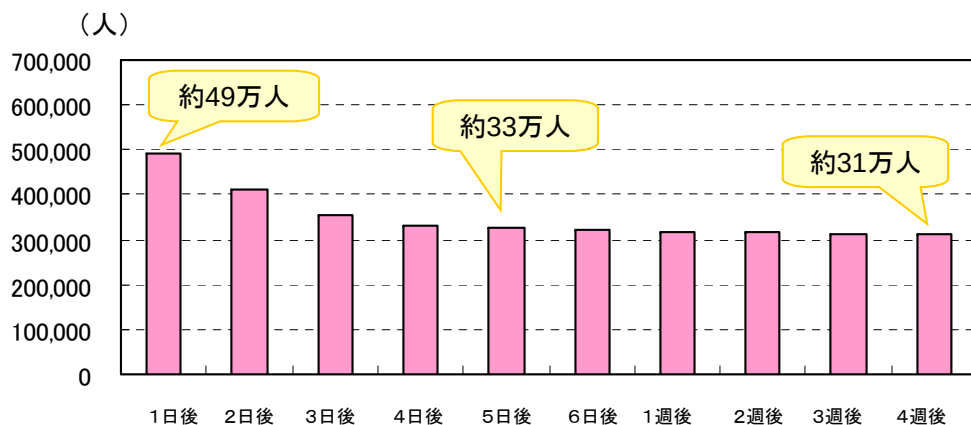
- 警察、消防、自衛隊が救助活動(1日あたり12時間)を実施^{注2}した場合、排水施設が稼動しないケースでは堤防の決壊から7日後に救助完了。排水施設が全て稼動したケースでは、3日後に救助完了。

ケース1

ポンプ運転:無 燃料補給:無 水門操作:無 ポンプ車:無 1/200年

救助活動を実施しなかった場合の孤立者数

12時間(昼間)救助活動を実施した場合の孤立者数

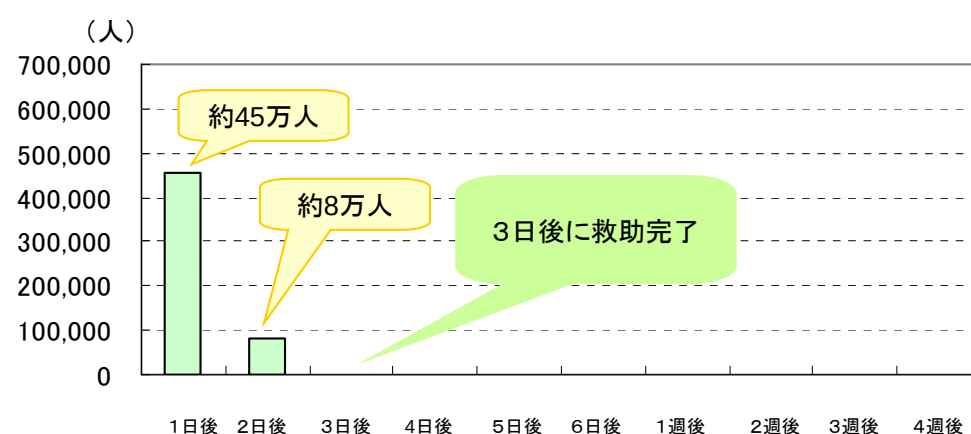
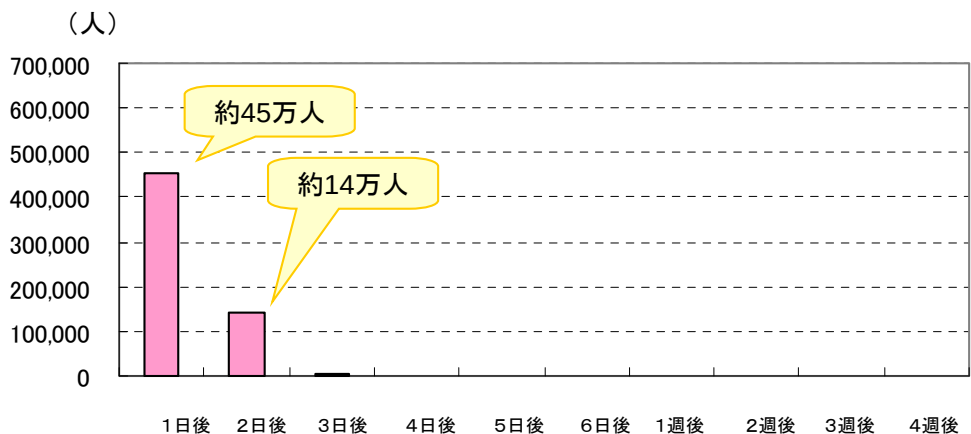


ケース8

ポンプ運転:有 燃料補給:有 水門操作:有 ポンプ車:有 1/200年

救助活動を実施しなかった場合の孤立者数

12時間(昼間)救助活動を実施した場合の孤立者数



注1:本資料で避難率40%の数値を取り上げたことは、その数値がどの市区町村でも代表的であることを意味するものではなく、避難率は、水害の切迫性を伝える各種情報の内容や提供時期、避難勧告等の時期や伝達方法、洪水ハザードマップの整備や避難訓練の実施等の普段からの備えの状況等によっても大きく変動しうる。

注2:警察庁及び消防庁は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、東京消防庁、警視庁保有のボート数、防衛省は、東部方面隊、横須賀地方隊管内の保有台数に相当するボートを用いての救助活動を想定(計約1,900艇)

18. 救助活動後の孤立者数の推移(避難率40%^{注1}:④-1荒川右岸低地氾濫(隅田川・神田川・日本橋川満杯))

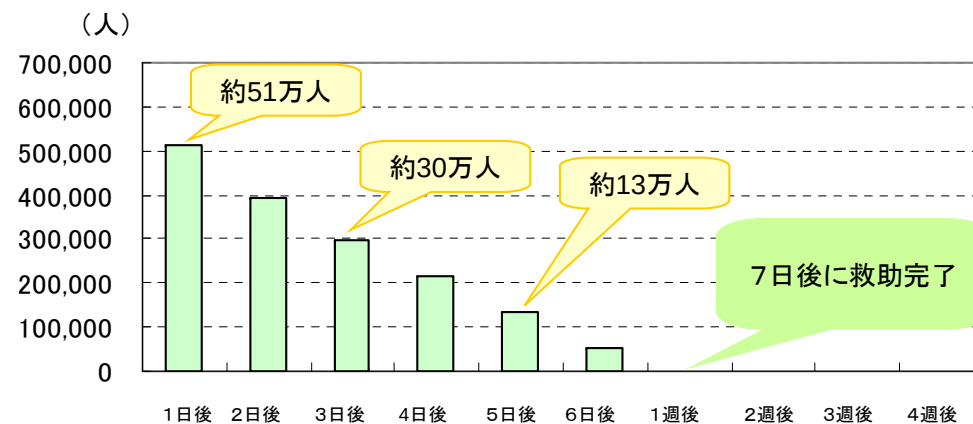
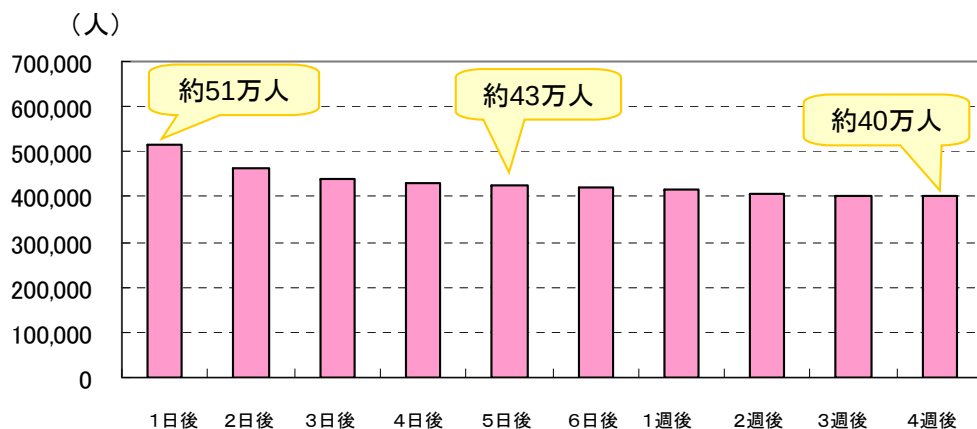
- 警察、消防、自衛隊が救助活動(1日あたり12時間)を実施^{注2}した場合、排水施設が稼働しないケースでは堤防の決壊から7日後に救助完了。排水施設が全て稼働したケースでは、4日後に救助完了。

ケース1

ポンプ運転:無 燃料補給:無 水門操作:無 ポンプ車:無 1/200年

救助活動を実施しなかった場合の孤立者数

12時間(昼間)救助活動を実施した場合の孤立者数

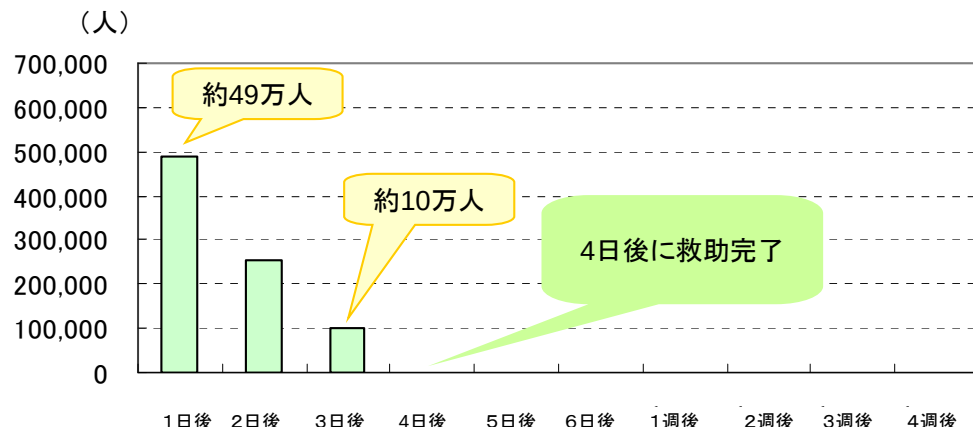
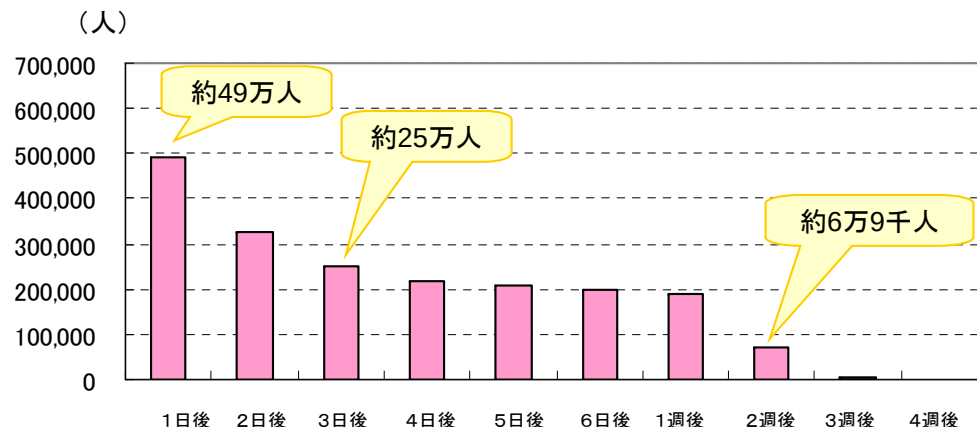


ケース8

ポンプ運転:有 燃料補給:有 水門操作:有 ポンプ車:有 1/200年

救助活動を実施しなかった場合の孤立者数

12時間(昼間)救助活動を実施した場合の孤立者数



注1:本資料で避難率40%の数値を取り上げたことは、その数値がどの市区町村でも代表的であることを意味するものではなく、避難率は、水害の切迫性を伝える各種情報の内容や提供時期、避難勧告等の時期や伝達方法、洪水ハザードマップの整備や避難訓練の実施等の普段からの備えの状況等によっても大きく変動しうる。

注2:警察庁及び消防庁は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、東京消防庁、警視庁保有のボート数、防衛省は、東部方面隊、横須賀地方隊管内の保有台数に相当するボートを用いての救助活動を想定(計約1,900艇)

18. 救助活動後の孤立者数の推移(避難率40%^{注1}:⑤江東デルタ貯留型氾濫)

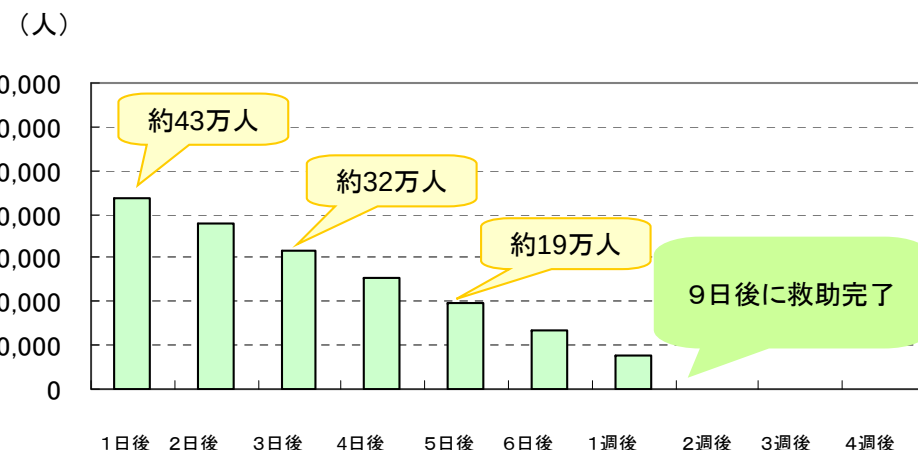
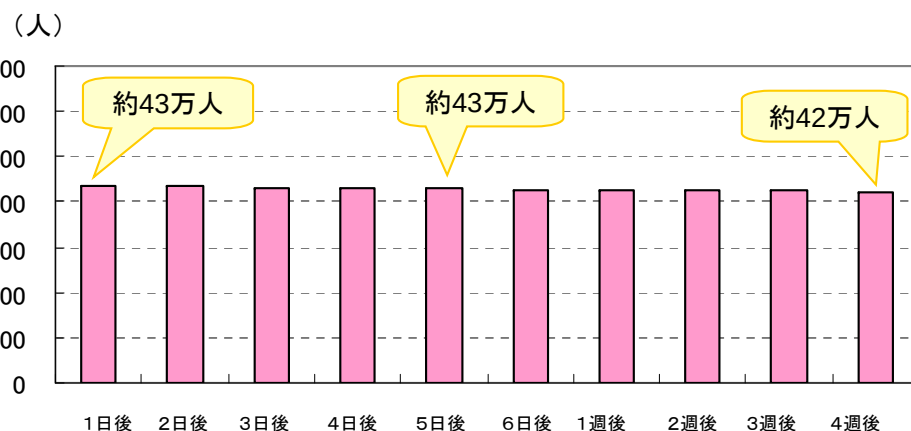
孤立者数

- 警察、消防、自衛隊が救助活動(1日あたり12時間)を実施^{注2}した場合、排水施設が稼働しないケースでは堤防の決壊から9日後に救助完了。排水施設が全て稼働したケースでは、3日後に救助完了。

ケース1 ポンプ運転:無 燃料補給:無 水門操作:無 ポンプ車:無 1/200年

救助活動を実施しなかった場合の孤立者数

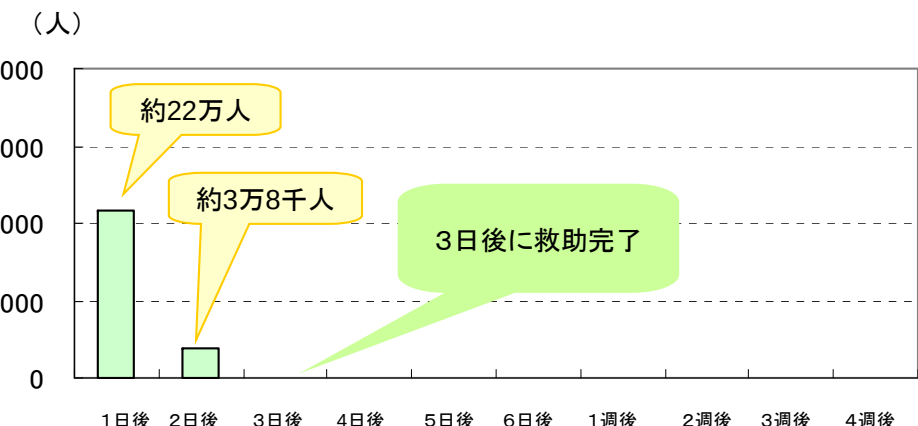
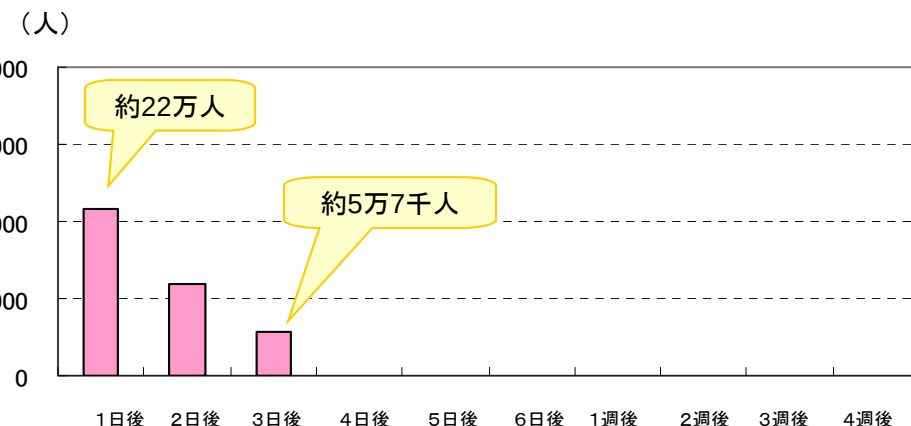
12時間(昼間)救助活動を実施した場合の孤立者数



ケース8 ポンプ運転:有 燃料補給:有 水門操作:有 ポンプ車:有 1/200年

救助活動を実施しなかった場合の孤立者数

12時間(昼間)救助活動を実施した場合の孤立者数



注1:本資料で避難率40%の数値を取り上げたことは、その数値がどの市区町村でも代表的であることを意味するものではなく、避難率は、水害の切迫性を伝える各種情報の内容や提供時期、避難勧告等の時期や伝達方法、洪水ハザードマップの整備や避難訓練の実施等の普段からの備えの状況等によっても大きく変動する。

注2:警察庁及び消防庁は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、東京消防庁、警視庁保有のボート数、防衛省は、東部方面隊、横須賀地方隊管内の保有台数に相当するボートを用いての救助活動を想定(計約1,900艇)

19. 各類型の死者数・孤立者数(1)

ケース1 ポンプ運転 無 :燃料補給 無 :水門操作 無 :排水ポンプ車 無 :1／200年

	避難率	死者数(人)	孤立者数(人)					
			1日後	2日後	3日後	1週後	2週後	4週後
① 元荒川広域氾濫	0%	約200	約77,000	約13万	約56,000	約38,000	約37,000	約37,000
	40%	約100	約46,000	約78,000	約33,000	約23,000	約22,000	約22,000
	80%	約40	約15,000	約26,000	約11,000	約7,600	約7,300	約7,300
②－1 荒川左岸低地氾濫 (中川・綾瀬川満杯)	0%	約1,800	約82万	約69万	約59万	約53万	約52万	約52万
	40%	約1,100	約49万	約41万	約36万	約32万	約31万	約31万
	80%	約400	約16万	約14万	約12万	約11万	約10万	約10万
②－2 荒川左岸低地氾濫 (中川・綾瀬川平常水位)	0%	約1,800	約82万	約54万	約40万	約32万	約31万	約31万
	40%	約1,100	約49万	約33万	約24万	約19万	約19万	約19万
	80%	約400	約16万	約11万	約80,000	約65,000	約63,000	約62,000
③ 入間川合流点上流氾濫	0%	約100	約24,000	約18,000	約16,000	約15,000	約15,000	約15,000
	40%	約80	約14,000	約11,000	約9,700	約9,300	約9,300	約9,300
	80%	約30	約4,800	約3,700	約3,200	約3,100	約3,100	約3,100
④－1 荒川右岸低地氾濫 (隅田川・神田川・日本橋 川満杯)	0%	約2,000	約86万	約77万	約74万	約69万	約68万	約67万
	40%	約1,200	約51万	約46万	約44万	約42万	約41万	約40万
	80%	約400	約17万	約15万	約15万	約14万	約14万	約13万
④－2 荒川右岸低地氾濫 (隅田川・神田川・日本橋 川平常水位)	0%	約1,200	約70万	約64万	約62万	約58万	約56万	約56万
	40%	約700	約42万	約39万	約37万	約35万	約34万	約33万
	80%	約200	約14万	約13万	約12万	約12万	約11万	約11万
⑤ 江東デルタ貯留型氾濫	0%	約3,500	約72万	約73万	約72万	約71万	約71万	約70万
	40%	約2,100	約43万	約44万	約43万	約43万	約42万	約42万
	80%	約700	約14万	約15万	約14万	約14万	約14万	約14万

19. 各類型の死者数・孤立者数(2)

ケース8 ポンプ運転 有 : 燃料補給 有 : 水門操作 有 : 排水ポンプ車 有 : 1/200年

	避難率	死者数(人)	孤立者数(人)					
			1日後	2日後	3日後	1週後	2週後	4週後
① 元荒川広域氾濫	0%	約200	約73,000	約12万	約8,300	0	0	0
	40%	約100	約44,000	約71,000	約5,000	0	0	0
	80%	約40	約15,000	約24,000	約1,700	0	0	0
②-1 荒川左岸低地氾濫 (中川・綾瀬川満杯)	0%	約1,600	約76万	約24万	約8,100	0	0	0
	40%	約1,000	約45万	約14万	約4,800	0	0	0
	80%	約300	約15万	約47,000	約1,600	0	0	0
②-2 荒川左岸低地氾濫 (中川・綾瀬川平常水位)	0%	約1,600	約76万	約24万	約8,100	0	0	0
	40%	約1,000	約45万	約14万	約4,800	0	0	0
	80%	約300	約15万	約47,000	約1,600	0	0	0
③ 入間川合流点上流氾濫	0%	約100	約18,000	約3,400	約50	0	0	0
	40%	約70	約11,000	約2,000	約30	0	0	0
	80%	約20	約3,500	約700	約10	0	0	0
④-1 荒川右岸低地氾濫 (隅田川・神田川・日本橋 川満杯)	0%	約1,900	約82万	約54万	約41万	約32万	約11万	0
	40%	約1,100	約49万	約33万	約25万	約19万	約69,000	0
	80%	約400	約16万	約11万	約83,000	約64,000	約23,000	0
④-2 荒川右岸低地氾濫 (隅田川・神田川・日本橋 川平常水位)	0%	約1,100	約67万	約44万	約37万	約31万	約83,000	0
	40%	約700	約40万	約26万	約22万	約18万	約50,000	0
	80%	約200	約13万	約88,000	約74,000	約61,000	約17,000	0
⑤ 江東デルタ貯留型氾濫	0%	約800	約36万	約20万	約95,000	0	0	0
	40%	約500	約22万	約12万	約57,000	0	0	0
	80%	約200	約72,000	約40,000	約19,000	0	0	0

19. 各類型の死者数・孤立者数(3)

ケース1'
 ポンプ運転 無
 :燃料補給 無
 :水門操作 無
 :排水ポンプ車 無
 :1／1000年

	避難率	死者数(人)	孤立者数(人)					
			1日後	2日後	3日後	1週後	2週後	4週後
① 元荒川広域氾濫	0%	約700	約42万	約51万	約39万	約37万	約37万	約37万
	40%	約400	約25万	約30万	約23万	約22万	約22万	約22万
	80%	約100	約83,000	約10万	約78,000	約74,000	約74,000	約74,000
②－1 荒川左岸低地氾濫 (中川・綾瀬川満杯)	0%	約3,900	約136万	約105万	約96万	約98万	約99万	約99万
	40%	約2,300	約82万	約63万	約58万	約59万	約59万	約59万
	80%	約800	約27万	約21万	約19万	約20万	約20万	約20万
②－2 荒川左岸低地氾濫 (中川・綾瀬川平常水位)	0%	約3,600	約129万	約95万	約77万	約67万	約66万	約66万
	40%	約2,100	約77万	約57万	約46万	約40万	約40万	約39万
	80%	約700	約26万	約19万	約15万	約13万	約13万	約13万
③ 入間川合流点上流氾濫	0%	約800	約34万	約35万	約35万	約35万	約35万	約35万
	40%	約500	約21万	約21万	約21万	約21万	約21万	約21万
	80%	約200	約69,000	約71,000	約70,000	約69,000	約69,000	約69,000
④－1 荒川右岸低地氾濫 (隅田川・神田川・日本橋 川満杯)	0%	約5,200	約117万	約106万	約102万	約99万	約98万	約97万
	40%	約3,100	約70万	約64万	約61万	約59万	約59万	約58万
	80%	約1,000	約23万	約21万	約20万	約20万	約20万	約19万
④－2 荒川右岸低地氾濫 (隅田川・神田川・日本橋 川平常水位)	0%	約2,000	約102万	約93万	約89万	約87万	約87万	約86万
	40%	約1,200	約61万	約56万	約53万	約52万	約52万	約52万
	80%	約400	約20万	約19万	約18万	約17万	約17万	約17万
⑤ 江東デルタ貯留型氾濫	0%	約7,500	約107万	約104万	約102万	約104万	約104万	約104万
	40%	約4,500	約64万	約63万	約61万	約62万	約62万	約62万
	80%	約1,500	約21万	約21万	約20万	約21万	約21万	約21万

19. 各類型の死者数・孤立者数(4)

ケース8'

ポンプ運転 有 : 燃料補給 有 : 水門操作 有 : 排水ポンプ車 有 : 1／1000年

	避難率	死者数(人)	孤立者数(人)					
			1日後	2日後	3日後	1週後	2週後	4週後
① 元荒川広域氾濫	0%	約600	約38万	約41万	約30,000	0	0	0
	40%	約400	約23万	約25万	約18,000	0	0	0
	80%	約100	約77,000	約82,000	約6,100	0	0	0
②－1 荒川左岸低地氾濫 (中川・綾瀬川満杯)	0%	約3,300	約129万	約80万	約48万	約14万	0	0
	40%	約2,000	約77万	約48万	約29万	約84,000	0	0
	80%	約700	約26万	約16万	約97,000	約28,000	0	0
②－2 荒川左岸低地氾濫 (中川・綾瀬川平常水位)	0%	約2,900	約118万	約74万	約40万	約5,300	0	0
	40%	約1,800	約71万	約45万	約24万	約3,200	0	0
	80%	約600	約24万	約15万	約79,000	約1,100	0	0
③ 入間川合流点上流氾濫	0%	約700	約32万	約31万	約23,000	0	0	0
	40%	約400	約19万	約18万	約14,000	0	0	0
	80%	約100	約64,000	約62,000	約4,600	0	0	0
④－1 荒川右岸低地氾濫 (隅田川・神田川・日本橋 川満杯)	0%	約4,400	約114万	約75万	約56万	約41万	約28万	約95,000
	40%	約2,600	約68万	約45万	約33万	約25万	約17万	約57,000
	80%	約900	約23万	約15万	約11万	約83,000	約56,000	約19,000
④－2 荒川右岸低地氾濫 (隅田川・神田川・日本橋 川平常水位)	0%	約1,900	約99万	約63万	約44万	約32万	約17万	0
	40%	約1,100	約59万	約38万	約26万	約19万	約10万	0
	80%	約400	約20万	約13万	約88,000	約64,000	約34,000	0
⑤ 江東デルタ貯留型氾濫	0%	約1,800	約77万	約40万	約17万	約700	0	0
	40%	約1,100	約46万	約24万	約10万	約400	0	0
	80%	約400	約15万	約81,000	約34,000	約100	0	0